

LA REVUO ORIENTA

1 9 3 7

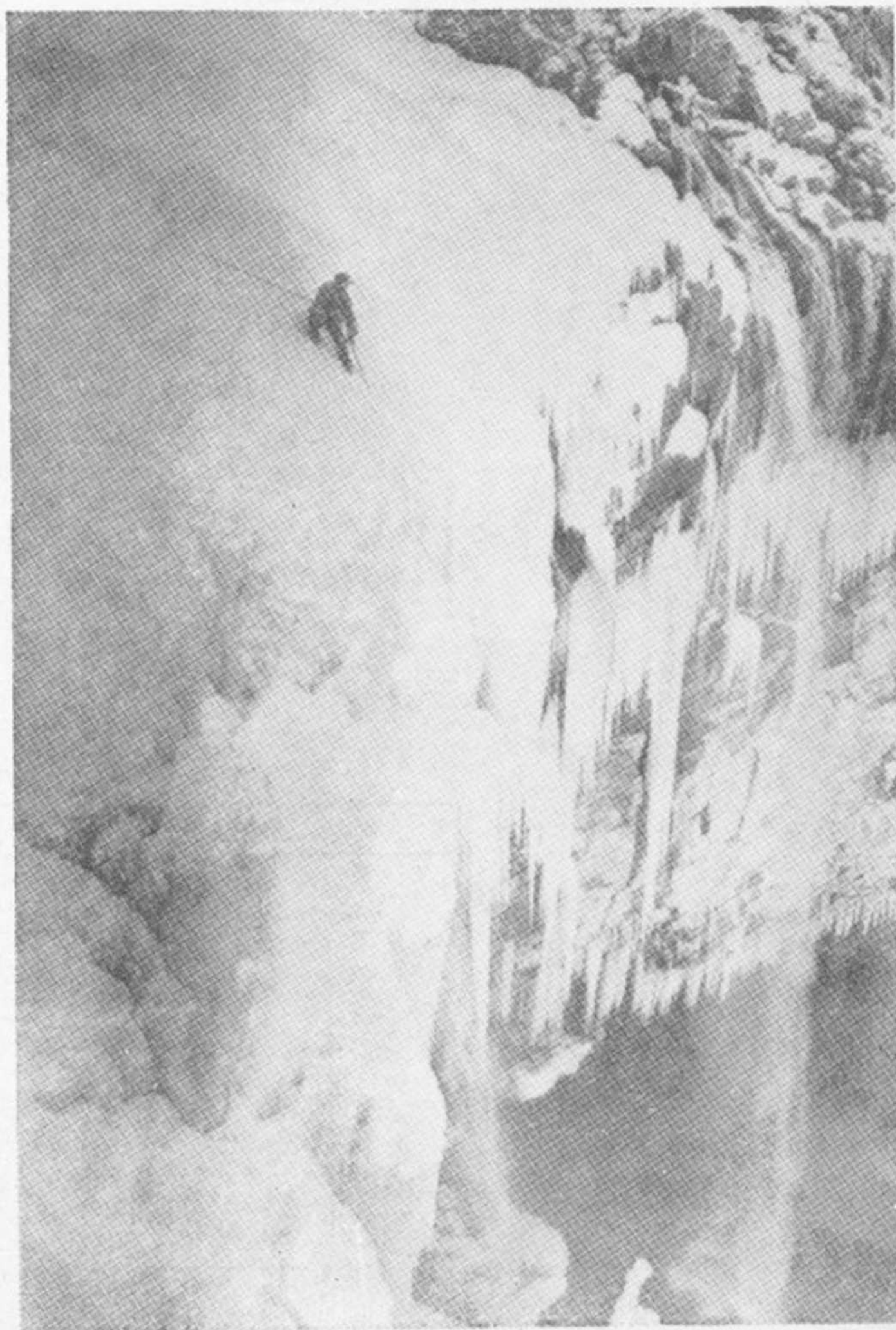
JARO XVIII

N - R O 2

FEBRUARO

Akvofalo Kagon en vintro

JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO



宣傳には戰術が必要	45
翻譯の共動化に主力を	脇坂圭治 46
我國における 에스語での及び 에스話についてのラヂオ放送一覽	編輯部 48
學會第一主義を持して (2)	岡本好次 51
動詞 fari の用法 (10)	小坂狷二 55
新刊紹介	58
Specialaj karakteroj de japana pejzaĝo	上田信三 61
Sado-Okesa	樋口幸吉 62
La Vojaĝo	R. A. DASEN 63
Kio estas filozofio?	野村佐一郎 67
内外報道	70
エス運動後援會報告	84
Revuo Orienta 1936 年度總目錄	85

我國に於ける 에스ペラント普及・研究・實用の中心機關

財團 日本 에스ペラント學會

東京市本郷區元町一の一三

—【電話小石川(85)5415番— 振替口座東京11325番】—

目的	エスペラントの普及、研究、實用
事業	(a) エスペラントに關する各種の研究調査及其發表 (b) 雜誌及圖書の刊行及外國 에스語書籍の取次 (c) 講演會講習會の開催及後援 (d) 其他本會の目的を達成するに必要な事業
會費	(a) 普通維持員 年額2圓40錢 (b) 正維持員 年額3圓 (c) 贊助維持員 年額5圓 (d) 特別維持員 年額10圓以上 (e) 終身維持員 一時金100圓以上
維持員へは	La Revuo Orienta を無代配布する他當會發行新刊圖書の割引等をなすことあり
本會の	普通維持員を除く他の維持員はすべて萬國 에스ペラント協會(UEA)の普通會員(simpla membro)となる
入會手續	住所 職業 姓名(振カナ付)を明記し會費一年分を支拂へばよい

會則及發行及取次内外圖書目錄要郵券二錢

役員名簿 (五十音順)

理事長 大石 和三郎	同 東郷部長 土岐 善麿	理事(常任) 三石 五六
理事 井上 仁吉	同 醫博 西 成甫	同(同) 美野田 琢磨
同 元東北大校長 井上 萬壽藏	同 藤澤 親雄	監事 醫博 鈴木 正夫
同 上野 孝男	同 監督局長 前田 穰	同 堀 眞道
同 小坂 狷二	同 醫博 望月 周三郎	同 清水 勝雄
同 中人教授 川原 次吉郎	同 柳田 國男	顧問 法博 穂積 重遠
同 文 郎 黑板 勝美	同(常任) 大井 學	同 子 三島 章道

LA REVUO ORIENTA

Jaro XVIII

N-ro 2

FEBRUARO

1937

宣傳には戰術が必要

——まづ先方に利益を與へよ——

エス語發表半世紀の紀念すべき輝かしい年を迎へた我々は此の一年を有意義にすごすと共に三年後にせまつた萬國博覽會やオリンピック大會に對する働きかけも一層眞剣にせなければならぬ。

この時にあたつて我々の最も注意すべきことは「我々はあまりに功をあせつてはならない」といふことと「我々は宣傳の戰術をあやまつてはならない」といふことである。

すべてエス語に限らず一つのことを宣傳するといふのには大きな忍耐力が必要である。徒らに功をあせつて九仞の功を一簣に虧いては何にもならぬことである。

それから戰術も大切である。まづかうからエスペラント一點張でつきすすんでいつたのではキツト強い反對をうけたり嫌はれたりするのが定石である。之をエス語の活用の方面から持ちこんで對手に對しても大いに便宜や利益を與へるといふ風にして併せてエス語を持ちこむといふことが必要であると思ふ。

例へば三年後の萬國博覽會にしてもオリンピックにしても單にエス語の採用を眞向から幹部に示すことをせずまづ我々の力で出来るだけ博覽會なりオリンピックなりに便宜をあたへその世界的宣傳をエス語でやつてやるといふ風にしてまづ先方の幹部のエス語に對する認識をふかめさせ、エス語の實際的價値をみとめしめる様にしなければならぬと思ふ。

それが戰術であると思ふ。この戰術を行ふについてはまづ

(1) 我國の同志諸君が各自世界各國にもつ文通者に對しオリンピックの事や博覽會のことを通知しそれらの人々に自國の新聞雜誌へ書いてもらふ様たのむことである。學會でも運動後援會の援助の下にこの方面の材料の提供をうけて、各國へ報道する方法をとりたいと思つてゐる。

(2) 本誌 Revuo Orienta を一ヶ月なり二ヶ月なりエス文ばかりで特輯して博覽會紹介號としたりオリンピック紹介號としたりすることが最も効果的であると思ふ。かうしてこちらからすすんで先方の提灯もちをまつさきにせなければならぬ。

Esperanto-Lernanto は街頭で販賣するのを主眼としてゐるからどうしてもこの雜誌全誌を宣傳用のため特輯するといふことはできないが Revuo Orienta は會員のものであり學會の會員たる人々は本誌がエス宣傳のために活用されることに異議をさしはさまれることがないと思ふ。

先年の汎太平洋佛教青年大會の時はまだそれほど本誌を活用して同大會の紹介をしようと考えなかつたがとにかく佛教特輯號を出したので同大會の幹部の人々から大變感謝され、それがキツカケで佛教方面のエス運動にも好影響を與へたことが多い。

佛青大會に比較して萬國博やオリンピックは遙かに一般の世人の關心がふかいし又遙に海外

へ強く呼びかけねばならぬ性質のものであるから學會が之に對し本誌一號や二號をその宣傳に提供すればどんなに幹部の人々によろこんでもらへるかわからないと思ふ。

從來我々は宣傳といへばむかうへのりこんでいつて先方にエス語を使はせる、あはよくば先方からエス運動に金を出させる位の虫のいい考へをもつてゐたが之は一人よがりの向ふ見ずのやり方である。まづかういつたやりかたをとる前に我々の側でなすべきことがあると思ふ。こちらばかりの勝手な虫のいい考へだけではよくないと思ふ。やつぱり初めはこちらから先方に便宜を與へ恩義をうるといふ位にせなければならない。

さういつたことをするのに我々エスペランチストの手許に資金が十分ないことはなさないが。しかし幸にも昨年から運動後援會が出来何ほどの資金があつまつたのだからこの資金はかういつた方面に有効に用ひたいものだと思ふ。

例へば日本紹介のエス文献を出版することに對し政府とか公共團體から補助金をもらふといふ風な運動をするにしても始めから先方目あてにたゞ運動するといふのでなく始めの中はいくらかの費用を我々同志の内部から誦達してさういつた文献を一冊位は出版してみても之を各國に配布してその反響をしらべそれらのすべてを統計にでもとつてしかる後にかういつた文献を何冊もだしたいから補助をねがひたいといつて陳情すればうまく通過することも多いが始めからこちらは何もせず唯先方の金だけ目あての様な風では先方でも非常に警戒して一文の金だとして出してはくれまいと思ふ。

眞劍勝負の極意とかに「皮をきらせて肉をきり肉をきらせて骨をきる」とかいふのがあるさうで、これはまづ對手に自分の皮膚位はきらせておいて自分の方は對手の肉へきりつける位にする覺悟でなければ仲々眞劍勝負には勝てぬといふことである。つまりこれは自分が一つも傷を負はないで對手だけ斬り殺すなど虫のいいことを考へてゐてはものにならぬといふのであるらしい。

宣傳でも同じことである。まづ對手を利用するには對手に利用される位にしむける様にせねばならない。(J. O.)

翻譯の共働化に主力を

脇坂圭治

どんなものでも、ある一つの事業に對する人間個人の力と云ふものは、そう無限なものでない筈です。私共がエス語を學び、翻譯をするにしました所で、それが個人の手に依るのと團體の力に依るのとではそこに大變な違ひがあることゝ思ひます。さて、そうだとしますと、私共は、エス語の翻譯に於て、從來、余り省りみられず、爲されてゐなかつたこの共働翻譯と云ふことを、一應こゝで考へて見る必要がありはしまいかと思ひます。

今假りに、一つの翻譯對象物を採り上げて見まして、それが充分完全に譯了されると云ふことは恐らくあり得ないことです。エス語に限らず昔から色々な人に依り、多くの物が譯され、公にされて來てゐますが、同一物でも、比較對照すると、矢張り十人十色の感のないものはありません。人各々の智識の程度、認識の深淺、或ひは思ひ違ひなどあつて一樣に計り得ないのは止むを得ないことですが、又それはある程度まで、その人のそれだけのものでしかあり得ないのです。よしんば、それ以上求めるとしましても、其の場合、どうしても他の力にまつより

外はありません。

これは必ずしもエス語から日本語への場合ばかりではなく、日本語からエス語への場合でも同様に云はれます。日本の古典文學や佛典などを譯すのでも、その原文に對する理解の程度に依つて、既にそこに原作と譯との隔りが出て來ますし、それに又譯者のエスペラントに對する、その人の質の問題に依つても亦相違が生じて來る譯です。勿論多くのエスペラント人の内には相當一人歩きの出來る方も居て、それらのものを爲しこなすことも出來ませうが、それらの方は全體から見てもほんの極少の方々だけでしかありません。又それらの方が假令それだけの力があつても多方面に亘る翻譯事業に従事することは、當抵不可能なことです。それで、こうしたことから考へて來て、私共は相互的な力に依つてこの不充分さを補つて行けばいいと云ふことに落ちついてくるのです。つまり、それぞれの事業に目的してそれぞれの組織に分れて、しかも出來るだけ、多數人の力に依り完成に努めて行くと云ふことです。

今迄、世間に、エス語から（又日本語からエス語へ）翻譯され、公にされたものと云つては遺憾ながらそう澤山ない様です。日本から發行されてゐる新聞、雜誌はどれだけあるか知りませんが、大小取り交ぜれば相當の數に上ることゝ思ひますが、余り多い故か、それらに發表されたエス譯も、そうタントは見當りません。これらのものを活用せず。エス語の實用を世間に示さないなんて、眞にエスペラント人よ 情けない話ぢやないかと云ひたくなります。もつとも如何な力作をしても之を出版し之を發表する經濟的の基礎がなければなりません。そのためエス文献の擴充も遅々たるありさまではありませうがそれにしてもこれは要するにエスペラント人の無力に原因してゐることであつて、それは又、一般エスペランチストのエスペラントに對する質の不足が、その大半の原因、主要なものとなりはしないかと思ふのです。若し私の言ふことが誤でないなら、總てのエスペラント人はもつと自らの質的向上と言ふことに意を向けねばならぬことですが又一般に質が不足してゐるが故に、翻譯に於ても、この共働化と云ふことが現在必要な問題になつて來るんではないかと思はれます。

既に色々な人に依り、エス語の實用が問題にされ文献の擴充が云々されてゐる時です。文献擴充のあらゆる方面に向つて多數人の共働力を必要とします。一作、十年、二十年掛つてするやうな氣永なことは現在あらゆる方面の物を必要とする時には許しません。假令、五貫目の荷を各自が一貫目づゝ持たうとも一人がそれを全部持つ苦しみより、より効果的であり、より健實であります。時代は、時間と經濟の能率を考へます。分業と集團力が幅をきかす時代です。當然現在のエス界にもこの翻譯の共働化が要求され、それが現實に實踐されていゝでせう。

先ず顔を洗つて、新鮮な氣持で、この翻譯の共働化と云ふことを考へて見ようぢやないですか。

從來、中等程度以上の研究會に於ける研究者達が、もう少し、テキストの選定に留意して口譯を譯文までに轉化せしめ、それを外部に發表する様努力したら、それこそ、より効果的な研究方法であり、一石、二鳥でもあり、三鳥でもあり得ると考へます。吾々のそうした發表の門戸は相當程度まで開放されてゐると思ひますが、斯如く努力する様希望したいものです。

Historieto pri Japanujo

最 新 刊

菊 半 截 50 頁

定 價 20 錢

學 會 出 版 部 發 行

美 本

〒 2 錢

學 會 出 版 部 發 行

日本におけるエス語での(及びエス語に ついての) ラジオ放送一覽表

學 會 編 輯 部

廿世紀の奇蹟の一つにラジオがある。ラジオは最も早く米國で實用化された。各國のエスペランティスト中にも澤山の radioamatoroj が輩出した。

ラジオによるエス語放送の皮切りは1922年6月19日北米 New Jersey 州の WYZ 局より J. D. Sayers 氏がやつた。その後1922年1923年時代のエス語ラジオ放送は英米全盛期でエス語の音楽や講演や講習を放送した。

日本で最も最初のエス放送は一寸判明しないが1924年4月5日の18時15分(米國時間)に J. D. Sayers 氏が WOR 局から放送するから日本でも聞いてもらひたいといふ手紙が前以て日本エス學會へやつてきた。當時日本の無線界もまだ幼稚で之を十分聴取するよい設備がなかつた。その上日米の間には曉方の空電の多い時刻で甚だ悪い kondiĉoj であつた。仙臺新潟青森の同志達も各所できいたがだめだつた。東京では學會の大井、岡本、植田(高三)、椎橋等の諸氏が日本無線會社へ早朝つめかけ技師長小島氏の好意により8時15分を待つたが何もきこえなかつた。それでその後で同會社で室内で發信し戸外で受信する實驗裝置をしてもらつて岡本氏がエス語の paroladeto をやり椎橋氏が Tagiĝo をうたつた。この實驗が日本でのラジオによるエス演説及唱歌の實驗放送の最初ではないかと思ふ。

その晩の夕刊に四谷の安藤氏が聴取に成功したと新聞にデカデカと報道されたがどうも時刻がこちらの實驗時刻で先方の放送時刻とはちがつてゐたんぢやないかと思ふ。

日本における最初の公的放送は1925年7月12日 JOAK が出來た時である。

勿論これよりも以前に無線技術者でエスペランティストである人々がエス語で通信の交換はされたことがあるだらうと考へる。

扱次に進藤靜太郎氏が調査蒐集されたもの

及び淺草エス會の松本健一君の調査とを加へ學會より地方會へ問合せて多少増補した日本におけるラジオによるエス語での及びエス語に關する放送の一覽表を掲載する。

JOAK	東 京	JOXK	德 島
JOBK	大 阪	JOAG	長 崎
JOCK	名古屋	JOBG	前 橋
JODK	京 城	JOCG	旭 川
JOFK	廣 島	JODG	濱 松
JOGK	熊 本	JOFG	福 井
JOHK	仙 臺	JOHG	鹿 兒 島
JOIK	札 幌	JOIG	富 山
JOJK	金 澤	JOJG	山 形
JOKK	岡 山	JOLG	鳥 取
JOLK	福 岡	JOOG	帶 廣
JONK	長 野	JFAK	臺 北
JOOK	京 都	JFBK	臺 南
JOPK	靜 岡	JFCK	臺 中
JOQK	新 潟	JBAK	釜 山
JORK	高 知	JBBK	平 壤
JOSK	小 倉	JQAK	大 連
JOTK	松 江	(MTBY	奉 天)
JOUK	秋 田	(MTCY	新 京)
JOVK	函 館	(MTFY	哈 爾 濱)

★1925年2月11日—3月5日、大阪朝日新聞主催ラジオ博覽會にて童謡合唱及上海への saluto. (高尾亮雄氏の努力による)。

★1925年8月30日、JOAK, 藤澤親雄氏、pri Esp.

★1925年12月15日、JOBK, 高尾亮雄氏、pri Esp., 山根千世子嬢、獨唱。

★1926年2月6日、JQAK, 尾花芳雄氏、pri Esp. en Esp.

★1926年2月7日、JODK, 大山時雄氏、pri Esp.

★1926年2月8日—4月28日、JQAK, 毎週木土曜 Esp-kurso, 尾花芳雄氏。

★1926年8月9日、JOCK, 吉井良成氏、pri

- Esp.
- ★1926 年 8 月 10 日, JOCK, 山田弘氏、pri Esp.
 - ★1926 年 11 月 14 日—15 日、石黒修氏、pri Esp.
 - ★1927 年 9 月 20—29 日、JOCK, 石黒修氏、Esp-kurso.
 - ★1927 年 9 月 25 日、JOAK, 西成甫博士、pri Esp. (okaze de la XIVa Jap. Kongreso).
 - ★1927 年 12 月 12 日、JOAK, 大石和三郎氏、pri Esp.
 - ★1927 年 12 月 13—25 日、JOAK, 大井學氏、小坂涓二氏、Esp-kurso, テキスト 15000 部賣盡す。
 - ★1927 年 12 月 15 日、JQAK, 尾花芳雄氏、pri Esp., Esp. kantoj.
 - ★1927 年 12 月 17 日 12 時 30 分、JOCK, Espero のハーモニカ合奏。
 - ★1928 年 1 月 14 日(?)、JOCK, 倉知治夫氏、pri Esp.
 - ★1928 年 3 月 4 日 15 時、JOCK, 森島松三氏、pri Esp.
 - ★1928 年 4 月 11 日—5 月 18 日毎月水金、JODK, 山本作次氏、Esp-kurso.
 - ★1928 年 8 月 15 日、JOGK, 浅田一博士、pri Esp.
 - ★1928 年 11 月 23 日—1929 年 2 月 25 日毎金曜、19 時 30 分—20 時、尾花芳雄氏、Esp-kurso, テキスト 3000 部を賣る。
 - ★1928 年 12 月 10 日—29 日、JOAK, JOHK, 18 時 30 分—19 時、大井學氏、Esp-kurso, テキスト 13000 部。
 - ★1928 年 12 月 15 日、JQAK, 尾花芳雄氏、pri Esp.
 - ★1929 年 2 月 2 日、19 時 25 分、JOAK, 土岐善麿氏、pri Esp.
 - ★1929 年 3 月 10 日—19 日、JOCK, 石黒修氏、Esp-kurso, テキスト 6000 部
 - ★1929 年 4 月 5 日—30 日(日曜を除く)、JODK, 19 時—19 時 40 分、大山時雄氏、Esp-kurso.
 - ★1929 年 12 月 15 日、JFAK, Zamenhofa festo を放送 5 pri-Esp. paroladoj, 2 kantoj.
 - ★1930 年 7 月 11 日—8 月 8 日毎金曜 19—19 時 30 分、JFAK, 安田勇吉氏、Esp-kurso
 - ★1930 年 9 月 12 日、JOCK, Perraire 氏、en Esp.
 - ★1930 年 7 月 31 日、JOBK, 岡本好次氏、pri Esp.
 - ★1930 年 8 月 2 日、JOJK, 大石和三郎氏、pri Esp.
 - ★1930 年——、JOJK, 瀬川重禮氏、Esp-kurso.
 - ★1930 年 9 月 12 日、19 時 25 分、JOCK, Perraire 氏、en Esp.
 - ★1930 年 10 月 8 日、JOAK, J. Scherer 氏、en Esp.
 - ★1930 年 10 月 18 日 21 時、JOHK, J. Scherer 氏、en Esp.
 - ★1930 年 10 月 20 日 17 時半、JOJK, J. Scherer 氏、en Esp.
 - ★1930 年 10 月 30 日 19 時 25 分、JOBK, J. Scherer, en Esp.
 - ★1930 年 11 月 4 日(?)、JOLK, JOGK, J. Scherer 氏、en Esp.
 - ★1930 年 12 月 15 日、JOBK, 浅井惠倫氏、pri Esp.
 - ★1930 年 12 月 15 日 18 時—19 時 30 分、JFAK, Zamenhofa festo. 杉本良、遠藤壽三、安田勇吉、松尾寅吉、武上耕一の諸氏其他。2 paroladoj pri Esp. 1 parol. en Esp. 2 kantoj, 1 teatraĵo.
 - ★1931 年 4 月 1 日、19 時 30 分、JOGK, 西成甫氏。
 - ★1931 年 7 月 20 日—8 月 31 日、6 時 30 分—7 時、JOBK, JOFK, JOKK, 進藤静太郎氏、Esp-kurso kun 37 lecionoj, テキスト 20000 部。
 - ★1931 年 7 月 28 日 18 時 50 分、JODK, 大山時雄氏、pri Esp.
 - ★1931 年 9 月 16 日 19 時、JONK, 古澤末治郎氏、pri Esp.
 - ★1931 年 9 月 18 日—19 時、JFAK, 浅井惠倫氏、pri Esp.
 - ★1931 年 12 月 15 日 19 時、JFAK, 甲斐三郎氏、pri Esp., kun teatraĵo en Esp.
 - ★1931 年 12 月 15 日 19 時 30 分、JOHK, 松隈健彦氏、pri Esp.
 - ★1931 年 12 月 15 日 19 時 30 分、JODK, 大

山時雄氏、pri Esp.

★1932年3月1日17時30分—18時、JOHK, 吉田松一氏、pri Esp.

★1932年3月2日17時30分—18時、JOHK, 鈴木博氏。

★1932年3月3日17時30分—18時、JOHK, 中村貴義氏。

★1932年5月1日11時より、JOGK, 寺崎忍助氏、pri Esp.

★1932年5月27日、JOJK, J. Major 氏、en Esp.

★1932年8月16日—9月17日6時30分—7時、JOBK, JOOK, JOKK, JOHK, JOUK, JOFK, JOTK, JORK, JOGK, JOLK, JOS K, 進藤静太郎氏、Esp-kurso kun 29 lecionoj.

★1932年9月14日、18時30分—19時、JOIK, Major 氏、en Esp.

★1932年10月5日、JOGK, J. Major 氏、en Esp.

★1932年12月11日17時30分、JOBK, 桑原利秀氏稿をアナウンサーがよむ、pri Esp.

★1932年12月14日14時—14時30分、JO FK, JOTK, 富樫東十郎氏、pri Esp.

★1932年12月15日18時、JQAK, Zamenhof festo 放送、pri Esp., 2 kantoj.

★1932年12月15日17時35分—18時、JOU K, 中田勝造氏、pri Esp.

★1932年12月17日20時—20時30分、JOGK, pri Esp., 8 kantoj.

★1933年1月4日10時—10時30分、JOAK より全国中継にて、永田秀次郎氏、pri Esp.

★1933年12月2日17時35分—18時、JOU K, 中田勝造氏、pri Esp.

★1933年12月14日、(?) JOAG, (九州中継)、植田高三氏、pri Esp.

★1933年12月 日 18時30分より、JQAK, 加藤正美氏、pri Esp., 双葉学院生徒の Esp. kanto.

★1934年4月2日、JOGK, 第22回日本エス大会についてニュース中放送。

★1934年12月12日、JODK (第一放送)、19時30分—20時、長谷川理衛氏 (城内忠一郎氏通譯)、en Esp. pri Esp.

★1934年12月15日、10時30分—10時55

分、JOQK, 久保義郎氏、pri Esp.

★1934年12月15日、17時30分—18時、JOHK, 菊澤季生氏、pri Esp.

★1934年12月15日、17時35分—18時、JOUK, 中田勝造氏、pri Esp.

★1934年12月15日、20時30分—21時、JOAK, JOBK, JOCK (各第二放送) 西成甫氏、pri Esp.

★1935年4月14日、JOJK, 瀬川重禮氏、pri Esp.

★1935年9月2日、21時50分、JOAK, 明日の歴史の中で pri Esp. (?)

★1935年12月14日、21時50分、JOAK, 明日の歴史の中で pri Esp.

★1935年12月15日、14時—14時30分、JOUK, 中田勝造氏、pri Esp. Esp. kanto (中田由紀子嬢)。

★1936年6月9日、19時、JOAK, ニュースの中で日本エス運動三十週年記念祝賀會について放送。

★1936年8月16日、11時—11時30分、JOHK, 岡本好次氏、pri Esp.

★1936年9月24日、JOAK, ニュース中磯部嬢の歸朝につきエス語に言及す。

★1936年9月28日、14時15分—14時35分、磯部幸子嬢、pri Esp.

★1936年12月14日、21時50分、JOAK, 明日の歴史中エスに言及。

★1936年12月15日、17時35分、JOHK, 松隈健彦氏、pri Esp.

★1936年12月15日、17時—、JOLK (JOGK, JOSK, JOAG, JOHG 中継)、大島廣氏、pri Esp.

★1936年12月14日、18時25分—、JODK, 大山時雄氏、pri Esp.

——以上 1936 年末迄——

おねがひ

以上發表のラジオ放送の表中に洩れたものがまだあると思ひます、重要なものはもれなく採録したいと思ひますからこの記事を御覽になつて洩れたもの御氣付の節は**すぐ**御通知下さい。次號以下で訂正追加したいと思ひます。

以上發表の中のものの中で訂正すべきもの、時刻不明等のもの、おわりの節は之亦御通知願ひます。

學會第一主義を持して

——過去十七年をふりかへつてみて——

(2)

岡 本 好 次

A. 今日は學會の事務は主として書記の方や女の事務員の方々でやつてゐますが昔はどういふ人達がやつてゐられたのですか。

O. 學會の設立當初から昭和5年秋迄は全く奉仕的に働く何人かの委員(後に評議員)が主としてやつてきたのでした。昭和5年秋以後は奉仕的に働く人々の外に書記をおくことになつた。學會設立當初は前にも申上げた様に學會も資産が全くの無一物の時代で大正14年夏迄小坂さんの御宅に厄介になつてゐたのでした。その時分は晝間の鐵道省の勤めからの歸りに學會へよつて仕事を手傳はれた三石君(現理事)、保坂君(現横濱エス協會々長)、平林君その他二三の鐵道の人々が主として konstanta の事務をやられ Revuo Orienta の編輯と宣傳その他總括的の仕事は小坂さんが采配をふつて我々學生が學會委員として働いたものでした。そして小坂さんも何時官命で洋行するかもわからぬといふので當時學生の委員連は時々小坂さんの gvido の下に Revuo Orienta の編輯を練習したものです。その當時の R. O. を見ると“Laborinto de tiu ĉi numero:...”と名前が出てゐます。(しかしこれも全く名義だけでちつとも仕事をせず萬事小坂さんまかせだつた委員もあるから雑誌上の記載だけでは不明です。)

大正14年9月小坂さんが洋行する様になつてからは委員達が結足して編輯に當ることになりしばらく當番制がつゞいたが學生で卒業したものが多く又松崎克巳君がなくなつたり他の委員連も役所勤めが忙しかつたりして編輯の難務に積極的にあたる委員がへつてきた。

大正15年7月學會が法人になつた頃には學會設立時代からつゞけて R. O. の印刷を引受けてくれてゐた大道社を引あげて今の一匡印刷所へ仕事をうつすことになつた。これは大正15年の3月號から内地及海外エス報道8頁を R. O. の附録とすることを提案した自分がその附録の編輯にかゝり當時一頁3圓餘の植字賃に對し一匡印刷所へ交渉一頁2圓でこの附録の印刷を引受けさせたのが始まりで結局この同じ値段で R. O. 全體を7月號から一匡印刷所で請負はせることになつた。もつとも新撰エス和辭典の植字も大正15年の初頃から同じ印刷所にかゝつてゐた關係もあつたからである。そんな加減で R. O. の編輯も自分が印刷所の變更直後しばらく引受けることになつて守隨君等の御手傳をえてそのまゝ相當永く編輯をつゞけてやることになつてしまったのです。(大體大正14年夏から昭和4年頃迄つゞきました。昭和5年は當番制となり昭和6年は編輯會議制から書記がやる様になつた)。

R. O. の内地報道はそれ迄エス文だつたのですが R. O. の附録としてしかも安い値段で發行するため日本文にしたのです。そして今日迄つゞいてゐる仕事です。

學會を財團法人にすることは既に大正13年6月8日の臨時總會で確定してゐたのですが(同年5月號 R. O. 3-5頁參照)財産が少いので認可が下りなかつた。大正15年になつてどうにか財産も約一萬圓に達したので再び法人認可の運動をおこした。この法人認可について文部省との折衝に専ら力をつくされたのが長谷川理衛君で同君は當時奉職中の裁判所をやめて洋行前で數ヶ月の暇があつたので専らその方面に働かれた。當時長谷川君が裁判所につとめてゐるまゝだつたらこの繁雜な手續が涉らなかつたと思ふ。寄附行爲(法人の規則)の如きも原案通り

は通らず當局と折衝上屢々條文を變更しやつと通つたといふ有様で何しろ大變だつたのです。

實際當時學會に一人の事務員もをらなかつた時代には晝間外部に對して折衝するとなるとどうしても學生かそれとも誰か遊んでゐる様な人がゐないと不可能だつたのです。だから奉仕的の人間だけでは學會も夜だけしか *funkcii* しないわけです。

注文のあつた書籍の發送とか會費その他の入金の記事の如きことは夜の仕事で差支へはありませんが併し印刷所への交渉等はヤツパリ晝間が必要でした。宣傳は勿論のことです。私も學會に電話がなくて近所の米屋へ出掛けていつては印刷所へ電話をよくかけたものでした。

それにしても晝間勤めをもつてゐて夜は又毎日學會へつめて通はれた三石君その他の人々の苦心も並大抵でなかつたことはどなたも御察し下さるでせう。

この當時の人々はすべて皆學會の基礎が確立するのをたのしみに働いてきたのでした。自分の遊びとか娛樂とか家庭の團樂なんかはエス運動のため大なり小なりけしとんでしまつてゐたわけでした。エス運動の中央機關として一日も活動を怠ることのできぬ學會にあつては單に宣傳のみでなく、毎日缺さずに事務的の仕事をつゞけなければならないのでした。

昭和2年の暮になつて龜崎佳子嬢が學會の仕事を奉仕的に引受けられることを申出られたので我々としてはこの上もなくうれしかつた。同嬢はそれ以來毎日午後電車賃自辨で學會へ通はれた。それで事務的の仕事は同嬢にやつていたゞく様になつたので大いに助かつた。

學會の出版物がだんだんふえてくるに従つてどうしても晝間 *konstanta* に働く事務員を必要としたのであるが幸ひに龜崎嬢の献身的奉仕によつて事務が遂行されたのでした。

私は前述べた如く昭和3年から學校につとめたし和エスの編纂を引受けてゐたのですが R. O. の編輯は昭和4年頃迄お手傳ひしたがその後は再び當番制になつて大島養夫君守隨一君平岡昇君等がやりその後露木清彦君や城戸崎益敏君がやつてくれた。

昭和5年の秋にICKの特使 J. Scherer 氏が日本を振出しに世界一周旅行に出られるといふことになりまつさきに日本へ來られる様になつたので同氏の歡待といふことから考へても學會に晝間暇のある人間が一人位居る必要を痛感してゐたので當時熱心に學會へ來てをられた平澤義一君を學會書記といふ名義で始めて有給事務員として雇入れることになつた。當時龜崎嬢も會の仕事を手傳つてくれてゐたが外部的の仕事や外國からの文書の處理海外エス書輸入や外國から來た同志の歡待等を平澤氏がやられることになつた。(R. O. 昭和5年11月號卷頭言參照)。

併し同君は不幸間もなく重病にかゝられ翌年夏限り退職されたのは遺憾であつた。その後學會には有給事務員無用の空氣が濃化した自分はいくまでその必要を主張してゐた。

幸ひ三宅君が遊んでゐることをきいて昭和6年多に平澤君の後任として來てもらつた。

その中に龜崎さんが教會の依頼で幼稚園の仕事に入られる様になり學會へ來られる度數が少なくなつたが昭和9年頃迄はつゞけて來ていたゞいた。

昭和8年から *Revuo Orienta* の外に *Esperanto-Lernanto* を發行することになつたので手不足になり給仕をおくことになつた。昭和9年春にその給仕がやめたので今度は女事務員を採用することになり今日に及んでゐる次第です。給仕及び女事務員は原則としてエスペランチストでない人を採用した。

つまり學會の事務は始めは全く奉仕的の人々の協力によつてなされ昭和5年後學會の基礎も出版部の發展によつて確立されたので有給事務員たる書記をおいたわけです。

そして今日は學會の大半の仕事が會計だけが三石理事の手になされてゐる外主として書記及び事務員によつて遂行される様になり唯主要な用務のみ役員會によつて決定された後書記事務

員によつて處理されてゐるわけです。

學會創立當時から今日迄學會の雜務を多少でも奉仕的に手傳つて下さつた人々の名を全部あげるとすれば百名以上にもものぼりませうか。しかしこゝに一々お名前をあげることも不可能ですがそれらの人々の大半は學會の委員だつたり理事や評議員であつた人々なのです。

學會に書記及事務員がおかれてからは奉仕的に働かれる方が從來にくらべて減少したのが遺憾です。しかし昨年運動後援會が出来てその幹事として働かれる人々が出来こゝに再び奉仕的に仕事を助けて下さる人々がふえて來たのはありがたいと思ひます。

A. あなたが學會に入られたのは。

O. 私は前申上げた様に昭和3年以來某中學につとめてゐたのですが不幸にも昭和6年末にその中學が失火で消失し昭和7年3月に經營者が變り大部分の教員が退職することになつたのです。私もその際やめました。その時私はすぐ新しい職をさがすかどうかの問題にぶつかつたのですが何分晝間勤めてゐたのでは和エス辭典の仕事も十分にすゝまず、もしこの際職を探し一層激職につくことになると和エスの出版も何年先になるか豫想もつかないので(焼けた學校は私立でしかも勤務が非常に樂な學校でしたがそんな學校はあまりないやうです)和エスを完成する迄は何だか重大な重荷をしておつてゐる様でどうしてもおちついて職務につくことが不可能に考へられたのでした。そして理事の方々と相談の結果結局しばらく學會から編纂費を捻出してもらつて専心同辭典の完成に従事するといふことになつたのです。その時の私の氣持では一日も早く和エスを出したいといふ氣持からでした。それでその當時は朝から夜中まで日によつては徹夜で仕事をやつたのでした。何分一日の分量をきめておいてその分量が夜中までに出来なければ徹夜したのでした。

ところが昭和7年の暮になつて學會から Revuo Orienta の外に初等中等雜誌 Esperanto-Lernanto を發行するといふことになり Esp-Lernanto の方を三宅君が引受けられることになつたので自分が R. O. の方の編輯を引受けることになり書記長といふ様な役目をふりあてられることになつた。それで R. O. の編輯の仕事がふえたので和エスの方の仕事はそのため遅延したのはやむをえなかつたのです。今から考へると Esp-Lernanto の發行が一二年おくれてをればもつと早くに和エスが出來たのと思ひます。その結果和エスはやつと昭和10年5月に發行されたことは御承知の通りです。私の始めの氣持では自分は學會の出版の方面のみに専心努力するつもりでしたが R. O. の編輯をやり書記長といふ名義を與へられたので外部への宣傳の仕事をも責任をもつてやらねばならぬ立場になつてしまひました。

私は學生時代のみならず社會に出てからも、たえず學會の手傳ひをしてきたが併し學會から給料をもらふといふことは夢想もしなかつた。あの昭和6年末の火事さへなかつたら恐らく今日まで同中學に勤務してゐたらうし本職をやめてまで學會の仕事に深入りする決心はつかなかつたと思ふ。人生の行手といふものはわからぬものだと思ふ。

和エスも完成した今日めざした第一の仕事が一應終をつげたが學會としてなすべき仕事はまだまだいくらでもあるので其後そのまゝ書記長の職をけがしてゐるが併し自分としては學會から給料をもらつて働くといふことには氣持の上でそぐはないことが多いので精神的に非常に大きな苦痛を感じてゐます。

A. あなたが今日迄學會の爲あらゆる犠牲をしのんでやつてこられた氣持は十分わかりましたがあなたはエス運動と日本エス學會といふものとを全然一つにみてゐる様ですがエス運動をやるにしても學會以外の團體でもやれるわけぢやありませんか。

O. 理窟はどうともつけられます。しかし私は次の様な信念で行動してゐます。即ち私は國際語の必要を感じエス運動に一身をさしあげる氣持のおこつたのは大正 10 年に東京へ來て當時學會假事務所だつた小坂氏の家へ出入りし小坂さんの私心のないエス運動に對する熱と努力に敬服しその感化をうけたからです。そしてその當時としては我々が中央でエス運動をやるとすればどうしても學會をもちたてゝる以外に方法がなかつたのです。そして前に申上げた様にだんだん學會の仕事の手傳をしてゐる中に學會も大きくなるし又その當時から今日まで全く日本全 esperantistaro の所有物たるエス運動の中心機關としては學會以外に一つもないといふことを確信しましたからです。

この十數年間に全國的な名前の會が幾つもつくられたがそれは一二の人の賣名のためだつたり全くの個人の商賣的な經營物だつたり、さうでなければ或る特種の團體の一部門であるといふ風に純粹に單にエスペラントだけを全國的におしすすめようといふ目的だけで出來あがつてゐるのはあつたが本當に公共のものとしては學會以外にないといつても過言でないと思ふ。もしあるなら云つてみてもらひたいものです。

A. さういへばさうですね。

O. その證據に學會以外で全國的機關の様な名をつけてゐる會で會計を發表してゐる會は一つもありませんぢやないですか。(ここでは一般的全國的のものについていつてゐるのであつて鐵道聯盟とか科學協會の如き専門的全國團體についていつてゐるのではありません。)尤もかういつた會とても何も今時エスペラントで利益をえてゐるわけでもなくむしろもちだしでせうがもちだしなら持ちだしでもよいその會計の明細を發表したらよささうなものです。會員もなくよし會員といふ名があつたとて會費の出入の明細を始め一切の會計を發表しないのは公の機關といふことができますか。個人の私有物でないといへませうか。名前だけなら看板一枚つけばいいのですからね。

扱エスペラントが最も必要な國でしかも世界の強大國といへば日本しかないのですから世界のエス運動の將來の發展は我國のエス運動の發展に俟つより外にない、さうしてみると我國のエス運動の將來こそ實に全世界のエス運動の將來を卜する重大な責任を負つてゐるのだ。その日本のエス運動をすすめるにはどうしても學會を中心にしてエス運動を發展させなければならぬと考へたのです。

そこで私から云へば學會を發展することが小さくみれば單に學會のみの發展にすぎないが之を大きくみれば我國のエス運動の發展であり更に大きくみれば全世界のエス運動の發展であると考へる様になつたのです。

かう考へた結果エス運動は即ち學會を發展させることだといふ結論に達したわけです。

そして私は年中、一にも學會、二にも學會と主張する所以です。そして過去十七年間の私のエスペランティスト生活はこの**學會第一主義**の實踐に終始したのでした。

尤も之は私唯一人が考へてゐるといふのでなく學會の幹部の方々や學會を熱烈に支持される人々の誰しも考へてをられるところでせう。

昨年原田君等によつて提唱された**綠化組**もかういつた私と同じ様な**學會第一主義**の考へから組織されたものと思ひます。學會が我國のエス運動の原動力となるといふことを信ずるが故にこそ學會の會員をふやさうといふ力強い結合ができるのです。

私はいひたい。我國のエスペランティストは一人残らず學會に入會してこの中心機關をもちたてゝもつと強固なものにしてもらひたいと。世間にはエス運動に熱心な人でしかも學會へ入會

されてゐない人がまだ澤山ゐます。又自分の専門の會に入つてゐるが學會には入らぬといばつてゐる人もゐます。これは實になげかはしいことだと思ひます。まだまだエス運動はどれもこれも獨りだちが出来ないのです。やつと學會がどうやらかうやら獨りだちをしかけてゐるだけです。どうしてもこの學會をもつともつとしつかりしたものにしてこそ初めて各種の専門の團體がすべて學會の援助の下に大いに發展することができるのだと思ひます。學會がまだ自分だけのことしか考へられない現状では甚だなげかはしいではありませんか。

今日日本には五千人位のエスペランティストがゐるだらう。この人々が一人のこらず學會の會員になつてくれれば今日千三百餘人の學會の會員は一躍約四倍になります。かうなれば學會は各地方會や各専門團體に對しても多少の經費を支出することができる様になるのです。

A. 學會に入らぬ人のあるのは今のまゝの學會にあきたらぬといふ氣持をもつてゐるからではないでせうか。

O. それはありませう。私とても今のまゝの學會が理想的だとも何とも思つてゐません。しかし十七年前の學會が今日のものになるまでのことをよく考へてみて下さい。十六七年前の學會は生れたての赤坊みたいなもので一年や二年でつぶれるかどうかもわからぬものでした。しかし之をたすけてきたのは純な氣持の學生たちでした。そんな一年二年先につぶれるかを考へるよりも前にエス運動の中心として之をもりたてねばならぬといふ強い氣持で胸が一パイだつたわけです。さういつた氣持で働く人々があつたからこそ今日の大をなしたのです。まだまだ學會は幼稚です。やつと一人だちの出来る程度です。將來もつと理想的なそしてもつとより強固なものにしあげるためには今日の我々が協力して之をもりたてるべきだと考へます。

とにかく學會が今日の形態に於ても既に公的の財團法人であつて學會の財産は個人のものでなく之はすべて公のものである。私達が學會の犠牲になつて働けばその働いただけは有形無形の學會の財産になるのだしそれがとりもなほさず全日本 *esperantistaro* の共有財産なのです。こゝの所を十分理解していただくと思ひます。學會が大きくなつたとて一二の人が之によつて大きな利益をえるのではなくすべて全會員の持ち物 (*havaĵo*) たる學會が大きくなるにすぎないのです。

すべての専門の方面の全國的團體にしても一般エス運動の中心たる學會が發展しなくては到底その發展を期待できぬものですから自分の専門方面の團體にだけ加入してをればよいといふ考へをすてゝぜひ學會の會員にもなつてもらいたいものです。(以下次號)

動詞 FARI の用法

(10)

K. OSSAELA

§ 6. (a) Frazeroj kun „fari“ en transitiva senco (= „doni“).

Fari	baton = bati	vundon = vundi	difekton = difekti
	frapon = frapi	finon = fini	makulon = makuli

Tiam mi faros al vi solidan baton (= donos al vi solidan baton = solide vin batos).

(FI 16/29) そしたらお前をウンとなくつてやるぞ

〔註〕『打たれる』 *esti batita* は *ricevi baton*. Solida は (1) (fluida に對して内容の

固定せる) 固體の, (2) (内容が空でない) 内實の, (3) (質のあやふや, 手柔かでない) しつかりした, 手應へある, 堅牢な, (4) (内心がしつかりした) 堅實な, 實着な。bati solide は『しつかりと身に應へる程なぐりつける』

Vi ricevos **batojn** (FI 16/-5) なぐられるぞ

Tiel **solide** li neniam ankoraŭ estis batita. (FI 12/25) こんなに身に應へる程 (ウンとこさ) なぐられたことは未だなかつた

La birdo **faras** rapidan **frapon** (=rapide frapis) per laflugiloj. (FI 117/7) 鳥はバサツと一と羽ばたきした

Mi konfesas, ke mi pekis, mi krimis, nur **faru finon** (=donu aŭ metu finon=finu), nur lasu al mi pacon! (Rn 67/-6) ほんとの事私は神様にすまぬ事も致しました, 罪も犯しました, もうこれでおしまいにしてほしい, 後生を樂にさせていたゞきたいものです

Faru finon al la dramo! (H 91/17). 劇を中止せよ

Al lia vivo estis **farita fino** (=Li mortis) (FII 143/14). 彼は最後を遂げた。

Propramane li sin razis kaj **faris al** si nur unu solan malgrandan **vundeton**. (FIII 73/3) 自分で顔を剃つてたつた一つ小さい切り疵をこしらへた

Ĉiuj tuj ŝin ĉirkaŭis kaj demandis, ĉu ŝi ne **faris al** si ian **difekton** (=sin ne difektis). (FI 23/5) 皆彼女を取りまいて何か怪我はなかつたかと尋ねた

Kiu transmovas ŝtonojn, **faras al** si **difekton** per streĉo, kaj kiu hakas lignon sin vundas per ĝi. (Pr 22/13) 石を運搬するものは力を入れるために身をそこなひ, 木を伐る者は木にて身を傷く

Kian **difekton** li **faris al** homo, tian oni faras al li. (Lv 27) 彼が人に與へたる如き害を彼に與へられん

Kaj ĉiuj skribistoj ridis kaj **faris inkmakulon** sur la planko (=inkmakulis la plankon). (FIII 93/13) 書記共は皆笑つてインキをこぼして床に汚をこしらへた

Fari	promeson =promesi	lecionon =lecioni	lavon =lavi
	ordonon =ordoni	predikon =prediki	banon =bani
	riproĉon =riproĉi	instruon =instrui	kareson =karesi

Pli bone estas, ke vi ne **faru promeson** (=ne donu promeson=ne promesu), ol fari promeson kaj ne plenumi. (Pr 12/8) 約束して果さざるよりも約束をせざるがよい (Ank. vd. Lv 27-2; FIII 92/8; M 104/10; Re 23-22, 23-23, k c.)

Kaj mi **faris al** vi **ordonon** en tiu tempo, dirante... (Re 3-18) その當時われは汝に命じて……と云つた

Marta senĉese sidis sur la planko apud la kameno, en plena mallumo kaj **farante al** si mem akrajn **riproĉojn**. (M 199/21) マルタはまくらがりの中に自ら強く身を責めて (悔い乍ら) 爐のそばの床の上にそのまま坐つてゐた (ank. vd. M 70/19)

Mi estas el familio, **al** kiu oni povas fari nenium **riproĉon**. (GD 24/-3) 一點非の打ち處のない家柄

Ĉu ni devas fari **al** ni **riproĉojn** de la konscienco, se pro nia kamarado ni forbruligas la urbon? (Rt 64/14). 仲間の敵打にその町の焼き打をしたとて氣にとがめることもあるまいぢやないか

Ne estas necese **fari al mi tiom da lecionoj**. (GD 15/-8) このおれにそんなにお談義を並べたてる必要はないのだ (よくわきまへて居る) (*ank. vd. GD 10/18, 15/-8*)

Li faris fortan predikon pro lia maltrafo. (FK 27/-10) 彼の見當違ひがよくないとてウンとお説教を食はせた

Kaj li faris al li solidan moralinstruon. (FI 14/18) しつかりとおしつけをした (懇々と説諭)

Fari al iu bonan lavon (P 598) 或人をよく洗つてやる, 垢を落してやる (とは或る人をしつける, 人間らしくしてやる, 即ち **Fari al iu predikon pri moroj** と同意味の文句)

Ĝi estas malgranda resento de la historio de antaŭe, kaj ĝi pasos post iom da **karesado**, kiun vi **faros** al ŝi. (GD 34/9). あれは以前の (de antaŭe=de la antaŭa tempo) 一件をほんの一すねたまでなのだ (re'sento 過ぎた事の感情を含んでゐること), お前が少しかわいがつてやればすくなほるぢやらう

Fari al iu ursan kareson (P 420). 人を撫でてやる, 但しやさしく撫でてやるのではなくて熊式の愛撫, 即ちひどい痛い目に合はす, ブンなぐる). **Karesi kontraŭ la haroj** (さか撫でに撫でる) と同義の文句

En la jaro 1240 la senbridigita popolo **faris** inter la hebreoj grandan **sangobanon** (Rn 24/-6) 羽目をはずした人民だちはユダヤ人間に血の大洗禮を行つた (大虐殺を行つた)

[Tradukaj Ekzercoj II 解]

1. Kompromiso estis farita inter la du partioj.
2. Estis ne prudente de lia flanko, ke li faris konatecon kun tia kanajlo.
3. Faru al vi kuraĝon!
4. La patro faris al si la kutimon riproĉi min pri io aŭ alia ĉiam, kiam li min vidis.
5. Ni faris la kontrakton ne skribe, sed parole.
6. Li faris tiel mallertan paroladon, ke la aŭskultantoj oscedadis dum la tuta tempo.
7. Mi faris al li signon per la okuloj, ke ni ekforkuru.
8. Ĉar li estas forte ofendita, ni devus iel fari ordon, por lin kvietigi.
9. Ŝajnas al mi, ke li laboras tre diligente, ĉar li faras bonan (aŭ rapidan, aŭ rimarkindan) progreson.
10. Faru al vi oportune (=sen ceremonioj), mi petas.
11. Ni faru hodiaŭ vere gajan vesperon pro la okazo.
12. Li faras (=arangas) senkulpan mienon.
13. Ŝajnas, ke la malamikoj ne volas fari kun ni pacon.
14. Li faras ĉiam lertan parolon improvize (aŭ senprepare).
15. Mi faris eraron, konfidinte al li tion.
16. Mi faris kun li repaciĝon.
17. Mi faris konatecon kun li certe en tre diabla horo.
18. Vi faras tro da ceremonioj kun (aŭ vi estas kaŝema antaŭ) via amiko.
19. Mi ankoraŭ neniam faris paroladon en la publiko (aŭ faris publikan paroladon).
20. Ni faru tri rondirojn, antaŭ ol fari (aŭ havi) ripozon.

21. Ĉe tio li faris salton malantaŭen (pro ektimo).
22. Estis nur tri, kiuj sukcesis fari forkuron.
23. La sinjorino venis certe por fari paradon (=paradi) per siaj novaj vestoj.
24. Mi pensas, ke vi faras ĉe viaj gepatroj tre feliĉan novjaron.
25. La instruistoj faris kunligon (aŭ interligon) kun la studentoj por ataki la direktoron (aŭ por fari atakon kontraŭ la direktoro).
26. Ĉe mia mencio pri tio li faris acidan mienon.
27. Per kio (aŭ Kiamaniere) ni povos fari la plej gajan libertempon en tiu ĉi somero.
28. Li ellasis krion kaj faris gestojn de malespero.
29. Li faras mienon, kvazaŭ li sciis ĉion (en la mondo).
30. La aŭskultantaro faris tiajn bruojn, ke li ofte devis fari paŭzojn en sia parolo.

新 刊 紹 介

BIBLIOGRAFIO

Seditajn po 2 ni recenzas
Unuope ricevitaĵ estas nur menciataj

- ◎ 目下現品を取寄中のもの
- 將來取寄せる見込のもの
- ▲ 目下學會に在庫あるもの
- ★ 取次がぬもの及び非賣品

— 文 藝 —

✓ ■ **Kaptitaj en Nubio**: el „Durch die Wüste“ de Henryk Sienkiewicz. Esperantigita de Frato Wigbertus von Zon, LK. Eldonis Jos. M. Krijnen, Vught, Nederlando. 1936. 16½ × 21 cm. 120 p. broŝ. sv. fr. 2. 10. bind. sv. fr. 3. 10.

Bulthuis の序文に曰く「原著者わ Quo Vadis にて、譯者わ南ネーデルランドの宣傳者として誰知らぬものがない。願くばこの bonstila, flua lingvo の處女譯について多くの作品があらわれんことを！」スエズ運河會社の inĝenieroj の子供男女二人が土人にかどわかされて、砂漠をさまよい歩き、マホメット教の profeto から改宗をすすめられてもうけつけず、彼等の命をうかがつた leono を見事うちころしてから、土人達の手からのがれて、あるときは malsatanta elefanto を助けてやつてそれを servisto にしたりするが、最後に akvo にかつて死にかけたときに白人の探險隊に助けられる。アフリカの風物の中で少女をかばう少年の heroismo を畫いたもの。物語もごたごたしていないし、lingvo も校正刷を Akademio に送つて kontroliしてもらつた (Boucon が當る) ほどの用意をただけあつて simpla で klasika だから、初學者の多讀用に適當である。紙も良いし、活字も鮮明。(Kawasaki-N.)

▲ **Multe pli la amo**, de L. E. Thomson, eld. de Literatura Mondo, Budapest, 1936; 13 × 19 cm., 31 p. prezo: 25 錢, 送料 2 錢。

チェ・ソトードの受講生たちを材料にした三幕喜劇。登場人物七人、エスペランチストの會合に、餘興として、簡単に上演できる中歐風の軽い作品。文態は新鮮で、活氣に満ちてゐる。(M-Ŝ)

— 歴 史 哲 學 —

✓ ◎ **PROGRESADO KAJ LA PASINTECO**, de G. F. Wates, trad. de William Bailey,

eld. de The British Esperanto Publishing Co. Ltd., London, 1936; 12×19 cm., 152 p.
Prezo: 3 ŝ 6 p.

Progresado とは何か——といふ定義は、この書物には與へてない。人類文化の前進は、いかにして行はれるべきであるか、それを、著者は暗示しようとしてゐる。その手段は知るために、著者は、孔子の「溫故知新」(この言葉の譯文を、銘として、扉に入れてゐる)の勧めに従つて、人類の歴史を、十章にわたつてその黎明から、大戰前に至るまでの過去について、倫理的態度で觀察してゐる。そして、最後に、前進のめざましい實例として、“La nova Japanujo”の一章を設け、この國民の progresado が、revolucio によらずして、evolucio によつて行はれたこと、しかも、人類の歴史における evolucio は、生物學におけるそれと異つて、かくも著しい速さによつて行はれ得ると言つてゐる。そして、日本の示した實例は、人類が、善意と、明智と、正しい指導によるならば、より高く、より幸福な條件に達し得るといふ信念を、われわれに與へるものであるとしてゐる。

譯文は、古典的エスペラント文で、あぶなげがないかはりに、新鮮さにとぼしく、いくぶん読みづらい。(M-Ŝ)

— 文 法 —

■La Verbo en Esperanto, teorio kaj praktika uzo, verkita de Julius Glück k. J. H. J. Willems, eldonita de Zutphen — W. J. Thieme & Cie, 1937, 15×23 cm., 48 p.

エス語動詞はとかく自然語の慣習を以て類推したのでは却つてまちがふことが多い。本書はそれをさけるために全部エス語でエス動詞について詳しく説明したもので大してむづかしいことが書いてあるわけでないが實に要領よく面白くかいてゐる。講習を gvidi する人々は混成時などをどう説明するかといふ様な問題にぶつかることが多いがそんな際この本の説明をまねるのもよいと思ふ。

— 讀 本 —

✓ ■La Juna Vivo, internacia Esperanto-lernolibreto, verkita de E. Van Veenendaal-Bouwes, eldonita de “la Juna Vivo”, West-Gsaftdijk (N. H.) Nederlando, 1936, 15.5×21 cm., 32 p.

この本は la moderna pedagogia principo である Lernado per imitado に基礎をおいて編纂した教科書であると自負してゐる。

そしてこれは小供及び小學校教育のみをうけた大人を対象とすることとわつてゐる。

15課にわかれてゐて各課に單語を繪で示した挿繪があり全體に九個の歌(音譜付)が挿入されてゐる。もと雑誌 La Juna Vivo に連載したもの。

— エ ス 運 動 —

■Gvidilo tra la Esperanto-Movado, verkita de G. P. de Bruin, eldonita de Sennacieca Asocio Tutmonda kaj Federacio de Laboristaj Esperantistoj, 1936, 14×20.5 cm., 75 p.

1933年に第一版が出たがこれはその改訂版である。前の 48 p. に比べて今度は 75 p. であり formato も多少大きくなつた。Neŭtrala 及 Laborista 兩方面のエス運動について要領よく書いたもので IEL のこと迄既に記載されてゐる。

— 科 學 —

★**Raporto de la Aerologia Observatorio de Tateno, N-ro 11**, Jarlibro por 1933, eldonita de la Aerologia Observatorio, Tateno apud Tutiura, Japanujo, 1936, 23.5×30.5 cm., 292 p.

高層氣象臺報告第 11 號が出た。我々同志の間では餘りにも有名である同臺報告の最近號である。

Ampleksa raporto en Esperanto, per kiu ni, jap. samideanoj, povas fieri al la tuta mondo. Ni dankas la direktoron de l' observatorio, D-ron W. Oishi.

— 科 學 抄 録 —

★SEOK, D. M. (石宙明): **Studo pri la varieco kaj malbonformuloj de Pieris rapae (Linné)** (朝鮮産モンシロテフの變異研究); The Zoological Magazine (動物學雜誌), 48 (1936), 337-345.

★SEOK, D. M. (石宙明): **Pri la du novaj specoj de papilioj, Neptis okazimaj kaj Zephyrus ginzii.** (フカジマミスヂ及ギンジシジミなる 2 新種の蝶に就て); The Zoological Magazine (動物學雜誌) 48 (1936), 61-66.

★KANAYA Kazuhide (金谷一秀): **Praktika metodo pri plano de terkonекtoj** (接地の標準施工法); 早稻田電氣工學會雜誌 (The Journal of the Electrotechnical Society of Waseda), 16, n-ro 7 (1935), 243.

★KANAYA Kazuhide (金谷一秀): **Pri "Praktika metodo pri plano de terkonекtoj," I** ("接地の標準施工法" に就て, I); " , 16, n-ro 8 (1935), 266.

★" : " , II; " , 16, n-ro 9 (1935), 308-309.

— 案 內 書 —

✓★**Gvidlibro pri Rio-de-Janeiro, ĉefurbo de Brazilo**, e'donita de la Ministrejo por Eksterlandaj Aferaj ĉe la Ŝtata Presejo. 19×27 cm. 13 paĝoj (tekstaj)+32 folioj kun fotoj+1 geografia karto de l' urbo, 1936.

昨年 11 月の第九回ブラジルエスペラント大會記念として發行されたエス文リオデジャネイロ案内記である。

寫眞等あまりキレイではないが併し formato も相當大きい。

✓★**Italia**, esperanta eldono, speciala numero de "Italia" monata gazeto de Ente Nazionale Industrie Turistiche, Romo, Italujo, 1936. 24×34.5 cm., 48 p.

イタリー紹介の豪華版。(四六四倍版 48 頁)。寫眞を主とし之にエス語の説明文を入れたもの。各頁挿入の寫眞は實に立派なもの。日本の寫眞雜誌よりも遙かに藝術的なキレイな寫眞ばかりである。

伊太利の鐵道省と觀光協會發行の月刊雜誌 Italia の特別號である。

ファッショの國からかういつた案内記の出たことは注目に値する。希望者にはくれる筈。

Specialaj Karakteroj de Japana Pejzaĝo

Ŝinzo UEDA

Japanujo estas insulara regno! De Ĉiŝima (Kuriloj) kaj Karafuto (Sagaleno) en la nordo ĝis Tajŭano (Formozo) kaj Mikronezio en la sudo, multaj insuloj, grandaj kaj malgrandaj, kuŝas kiel vadŝtonoj sur la orienta maro de Azia Kontinento.

Japanujo estas montara regno! Nenie troviĝas tiel civilizitaj insuloj kiel japanaj, kvankam krutaj kaj altaj montaroj okupas la plej vastan parton.

Klimato de la lando ne nur diferenciĝas laŭ la alteco kaj la latitudo, sed ankaŭ pro la influo de la oceano kaj kontinento. Vento de la lasta portas pluvon al la orienta flanko de la lando en frusomero kaj en vintro; ĝi portas neĝon al la okcidenta flanko. El la tropika oceano ciklonoj ofte venas vizite Japanujon en aŭtuno. Sub tiu ĉi humideco vegetaĵoj bone kreskas ĉie en la lando kaj diversspecaj vegetaĵoj trovas sian plej konvenan lokon je klimato kaj tero.

Oni havas multe da problemoj ankoraŭ ne solvitaj pri japanoj kaj japana kulturo, kiuj kreskis en tia malsimpla natura cirkonstanco. Nur estas supozeble, ke ĝi ofte ricevis influon de la najbaraj popoloj per ia vojo en diversaj epokoj. La aŭtoro ne intencas diskuti ĉi tie pri japana historio, kulturo kaj socio. Li, kiel unu studanto de geografio, volas doni kelkajn atentojn pri specialaj karakteroj en pejzaĝo de la lando.

Monto Fuĵi sidas sur la trono de la japana pejzaĝo. Pri tio nenia klarigo necesas kaj neniuj kontraŭdiras. Kvankam ĝi nun ne fumas el sia kratero ĉe la supro kiel kelkaj el ĝiaj fratoj, ekz. Asama-jama, Ooŝima, Sakura-ĵima. Ni havas multe da vivantaj vulkanoj ĉiam fumantaj, kiuj en aliaj landoj ne troviĝas en tiel facile ireblaj okoj. Kiam lafo elfluis el la kratero, ĝi faris dezerton kovrinte arbaron, kaj digis lriverojn, kie aperis lagoj kaj akvofaloj, kiel tiuj en Nikko. Kiam la kratero grandiĝas, oni nomas ĝin "kaldero", kie staras centraj konusoj kiel Aso kaj Hakone, aŭ kuŝas lago kiel Toŭada kaj Kuĉĉaro. Vere Japanujo estas lando de vulkanoj, kiuj ne nur donas belajn pejzaĝojn, sed ankaŭ varmajn fontojn, kie vojaĝantoj refreŝigas siajn laciĝintajn korpojn.

Japanaj montaroj ne havas brilantajn glaciejojn kaj akrajn nudajn rokpintojn kiel Himalajo kaj Rokaj Montaroj en Ameriko, sed ili havas alian nuancon. Japanaj montaroj estas regno de la vegetaĵoj, sub kiuj fluas pura akvo rapide aŭ malrapide. La montaroj ŝanĝas sian veston laŭ la sezonoj. Floras ĉerizarboj kaj azaleoj en printempo, verda ganto el burĝonj malheliĝas en somero. En aŭtuno ili konkuras inter si belecon de sia dimanĉa vesto ruĝa kaj flava.

Sekve li rakontos pri pejzaĝo de la japana maro. En Setouĉi kaj Macuŝima oni rovas japanecan delikatecon en ĉiuj insuletoj kaj pinarboj, eĉ ĉe la fino de la branĉetoj

bone formiĝintaj kiel artefaritaj. Kontraŭ tiaj ĝentilaj amindaĵoj aliflanke staras altaj krutaĵoj kaj pintaj rokoj batalantaj kun frenezaj ondoj ĉe la marbordo de Sado kaj Oki. Sur suda maro kuŝas insuletoj ĉirkaŭataj de koralaro kaj kovritaj de ĉiam verdaj tropikaj vegetaĵoj. Ondoj de malvarma tajdo solece sonas ĉe la marbordo de norda maro, kie ludas marbestoj kaj birdoj.

Sur la fundamento de natura pejzaĝo homoj kulturis kampon kaj konstruis vilaĝojn kaj urbojn en la daŭro de multaj miljaroj. Kampo de rizujo kaj morusujo estas speciala elemento de la japana pejzaĝo. Tra la fenestro de la vagonaro ni vidas domojn kun diversaj formoj kaj el diversaj materialoj, ekz. tegolo, karekso, ligno kun ŝtonoj, arbŝelo. En iuj distriktoj ili havas blankajn murojn kaj en iuj arbaro kaŝas la vilaĝon. Pejzaĝo de japana kampo ja povas esti objekto de turista admirado! Speciale por fremdlandanoj mi esperas tiri ilian atenton al la kampara pejzaĝo, ĉar tio estas unu metodo komprenigi veran staton de nia lando. Se ili ne povus kompreni japanan spiriton ped ĉerizfloroj, ili komprenas nian ĉiutagan vivon per pejzaĝo tra vagona fenestro. Ĉu tio ne estas vera celo de japana turismo, kiu intencas ne nur gajni monon sed ankaŭ amikiĝon inter popoloj?

En la urbo troviĝas prospera komercejo kaj aktiva industriejo, kie movadas diversaj sciencaj maŝinoj kaj veturiloj. Revenas rememoro de pasintaj epokoj en la modernan urban vivon, kiam ni vidas blankan turon aŭ grizan ŝtonan muron de la malnova kastelo. Antaŭ Imperiestra Palaco spegliĝas modernaj konstruaĵoj kaj maljunaj pinarboj sur la surfaco de la akvo en ambaŭ flankoj de la fosaĵo.

Sado=okesa

(Popolkanto)

Trad. HIGUĈI-K.

佐渡へ佐渡へと

草木もなびく

佐渡はるよいか

住みよいか

Al Sado kaj al Sado

Eĉ sin klinas la plantoj.

Ĉu bone ho en Sado

Vivas loĝantoj?

来いというたとて

行かりよか佐渡へ

佐渡は四十九里

波の上

L'insulo vokas daŭre

Sed ve, statas ĝisplore.

Jen Sado kvardeknaŭ-ri

Sur ondoj fore.

佐渡の金山

この世の地獄

登るはしごは

針の山

En Sado, la ormino —

La infer' de ĉi mondo.

Ŝtuparo ho sen fino —

Ja « kudrilmonto. »

戀の新潟

ふゞきにくれて
佐渡は寝たかよ
灯が見えぬ

おけさ踊るなら
板の間でおどれ
板のひゞきで
三味いらぬ

咲いたさくらに
なせ駒つなく
駒がいさめば
花がちる

ないてくれるな
都がこひし
啼くな八幡の
ほとゝぎす

佐渡と柏崎
桿さしやとゞく
なぜにとゞかぬ
わがおもひ

ないてくれるな
別れのときに
沖で櫓櫓が
手につかぬ

佐渡の相川
どんと打つ浪は
かあい殿御の
度胸だめし

Neĝblove vesperiĝis
En Niigata pasia.
Ĉu Sado endormiĝis —
— Lumo nenia.

« Okesa » dancu hele
Sur la planko tabula.
Sonoro venas bele
Kiel tambura.

Al flora ĉerizarbo
Kial ligi ĉevalon?
Pro ĝia brava salto
Falos petaloj.

Ne krii, ho kukolo,
Bird' en l'arbar' Jaŭata;
Sopir' al Metropolo
Vane vekata!

Al Sado, de Kaŝiŭazaki
Atingas la remilo.
Pro kio sola vagi
Mia sopiro!

Ne ploru, kara mia,
Ĉe l'adiaŭ' korprema.
Sur maro krio via
Ŝirus min de remo.

Sur maro ĉirkaŭ Sado
Ondoj bolas en rulo.
Per tio ja sin hardas
Mia karulo.

LA VOJAĜO

Drameto por radiofonia prezentado, premiita de Itala Ministrejo
de Gazetaro kaj Propagando

verkita de R. A. DASEN

La vagonaro troviĝas sur la reloj de Milana Stacidomo, preta foriri.

Duaklasan kupeon eniras tri sinjoroj: franco, germano, italo, ĉiuj esperantistoj,
vojaĝantaj al Rome

(Sur la perono; en itala lingvo): — *Cuscini, cuscini! Acqua minerale, acqua minerale! Giornaliiiii...*⁽¹⁾

Germano (Serĉante sidlokon; en germana lingvo): — *Ach ja, da hätte ich mir ja einen schönen Platz erobert! Ah! (sidiĝas) — Ein wundervolles Land! Nur schade, dass man hier nicht deutsch spricht...*⁽²⁾

Franco (Serĉante sidlokon; en franca lingvo): — *Ici! Facchino! Voilà encore une bonne place. Merci, (Pagante) C'est juste?*⁽³⁾

Portisto (en itala lingvo): — *Grazie tanto. Buon viaggio Signore.*⁽⁴⁾

Franco (en franca lingvo): — *Quel beau pays! Et qu'est ce qu'on mange bien ici! Oui, si seulement je connaissais mieux mon italien...*⁽⁵⁾

Italo (serĉante sidlokon; en itala lingvo): — *Permesso signori? E libero questo posto? Si? (mallaŭte). Pare che questi signori non parlano l'Italiano. Ma vedo che portano la stella verde all'occhiello; dunque parleranno in Esperanto.*⁽⁶⁾

Italo (sin turnante al fremduloj): — Pardonu sinjoroj, ĉu vi parolas Esperanton?

Germano: — Jes! Ja! *Welcher Zufall!*⁽⁷⁾ Kia ŝanco!

Franco: — *Une merveille!*⁽⁸⁾ Feliĉa hazardo, vere!

Italo: — *Signori miei*⁽⁹⁾... pardonu, sinjoroj, certe vera hazardo; sed des pli bona, ĉu ne? — Permesu, ke mi diru al vi, kiom mi ĝojas vojaĝi ĝis Romo en via kompanio kaj estu bonvenaj en mia Patrolando!

Germano kaj Franco: — Dankon. Plezuron.

Italo: — Vidu samideanoj; ni Italoj estas fieraj pri nia patrujo kaj ni ĝin amas, kiel filo amas siajn gepatrojn. KREDU min, sinjoroj, ke ni estas feliĉaj vidante niajn amikojn viziti nin. Estu bonvenaj — sincere mi parolas — amikoj el ĉiuj landoj. Venu kaj vizitu niajn urbojn, niajn banlokojn famajn. Vizitu la antikvaĵojn de Romo, Pompei, kaj Herculaneum. Samtempe admiru la progresojn atingitajn sub la nuna reĝimo. (kun entuziasmo) *E vi dico egregi signori, che*⁽¹⁰⁾... pardonu, pardonu, samideanoj. Mi volis diri: ĉion ni faris kaj daŭre faras, por ke vojaĝo kaj restado en Italujo estu kiel eble plej agrabla, ripozdona kaj...

Germano: — Jes ja, *aber bitte*,⁽¹¹⁾ diru al mi sinjoro, mi vojaĝas ĝis Napolo. Ĉu vi

(1)=Kuseno, kuseno! Akvo minerala, akvo minerala! Ĵurnaloj...

(2)=Aĥ ja, se mi trovis belan sidlokon por mi tie! He! — mirinda lando! — Nur estas domaĝe, ke oni ĉi tie ne parolas germanan lingvon...

(3)=Ĉi tie! Portisto! Jen estas ankoraŭ unu bona sidloko. Dankon. Ĉu estas ĝuste?

(4)=Koran dankon. Bonan vojaĝon, sinjoro.

(5)=Kia bela lando! — Kaj, kiel oni bone manĝas ĉi tie! Jes, se mi nur konus pli bone mian italan lingvon...

(6)=Pardonon, sinjoroj? Ĉu tiu sidejo estas neokupata? Ĉu jes? Ŝajnas, ke tiuj sinjoroj ne parolas italan lingvon. Mi vidas ke ili portas la stelon verdan. Ĉe la buton-truo; do ili parolos en Esperanto.

(7)=Jes! Kia ŝanco!

(8)=Mirindaĵo!

(9)=Sinjoroj miaj...

(10)=Kaj mi diras al vi, estimataj sinjoroj, ke.

(11)=sed bonvole.

opinias, ke la nuna sezono estas taŭga kaj agrabla por viziti tiun urbon kaj ĉirkaŭaĵon, aŭ ĉu vi opinias...

Italo: — Plej taŭga, plej agrabla, sinjoro! Nun ni estas en plena printempo! Ĉu vi konas nian italan printempon? Ne? Ho, samideanoj, ĝin forgesi ne estas eble!... la ĉiamblua itala ĉielo; la sunleviĝo; la briletanta luno super la arĝentaj ondoj de nokta maro, niaj popolkantoj plenaj je muziko kaj poezio... (li kantas duonlaŭte napolan kanzonon):

*"Che bella cosa 'na jurnata 'e sole
n'aria serena doppo 'na tempesta..."*⁽¹²⁾

Franco: — *Oui, oui. Je veux bien croire.*⁽¹³⁾ Mi kredas vin. Sed diru, kiun parton de la najbaraĵo de Napolo vi proponus por nuna vizito? Ĉu Capri, ĉu...

Italo: — Jes Capri! Kaj Sorrento — la naskiĝloko de Torquato Tasso — kaj... Sed pli bone estas, se mi klarigos al vi iom pli detale. Ni prenu ekzemple la duoninsulon de Sorrento. Nu, aŭskultu samideanoj:

Post vizito de Napolo — por tion fari vi bezonos kelkajn tagojn —, kaj post vizito al la akvario (unu el la plej belaj en Eŭropo) — per vaporŝipeto vi atingos Sorrenton. Forlasante la napolan havenon, ne forgesu admiri la grandiozan panoramon, kiu tuj prezentas sin antaŭ via rigardo nome: la unikan pozicion de la urbo partenopea, kuŝanta marapude inter Vesuvo kaj Posillipo.

En Sorrento vi trovos komfortajn hotelojn. Plejparte ili kuŝas meze de oranĝ- kaj citronĝardenoj. El sub la ombraĵo de la famaj juglandarboj de Sorrento vi ĝuas vidaĵon sur Napolo, Ischia, kaj Capri. La aero estas plena de agrabla parfumo de oranĝfloroj kaj de samtempe maturiĝantaj oranĝoj, ambaŭ sur sama arbo! kaj mildaj sunradioj anoncas al vi la feliĉon de nekomparebla itala printempo...

Germano: — Nu, mi nur bedaŭras, ke mia edzino restis hejme...!...

Italo: — Samideano, el Sorrento pertu al ŝi belan memoraĵon: juglandlignan artobjekton. Dum la venontaj tagoj vi vizitos Sorrento'n kaj ĝian ĉirkaŭaĵon; kaj per veturilo vi iros al Sant'Agata sui due Golfi. Oh, sinjoroj! Vortoj — eĉ esperantaj — ne sufiĉas por prikanti la belecon de la tiea ĉirkaŭvidaĵo sur ambaŭ golfoj. Iru, iru vi mem. Vi vidos kaj vi ĝuos...

Franco: — Jes, ni faros la kontrolon!

Italo: — Vi devas nepre veturi de Sorrento al Amalfi. Tiam vi vidos unu el la plej bela, pentrinda, plej monta parto de Italujo: la duoninsulo de Sorrento. Tra vinberĝardenoj, tra oranĝ- kaj jugland-arbaretoj vi atingas la montpasejon por malsuprenveturi aliflanken. Kaj nun — sur sufiĉe bela kaj larĝa kaj ege pitoreska montvojo, dum kelkaj horoj, vi veturas laŭlonge de la maro. Iam vi tuŝas kvazaŭ la akvon. Foje vi troviĝas alta je ducent metroj super la marnivelo. La vojo konstante sekvas

(12)=Ho, bele brilas sur ĉiel' la suno, en la serena blu' post la tempesto (la komencaj versoj el "*O' sole mio*").

(13)=Jes, jes. Mi volas kredi bone.

la konturojn de la golfetoj kaj duoninsuloj; jen suprengrimpante, jen malsuprenfalante; tie trans tunelo; ĉi tie sur viadukto; dekstre la senlima blua, mediteranea maro, en la malproksimeco nur — ĉu fatamorgano? — estas videble marbordo de Paestum. Maldekstre gigantas la monto: foje terure abrupta; kelkloke kovrata per kreskaĵoj. Sub figarboj, persik- kaj abrikotujoj paŝtas aro da kaproj; kaj nun alproksimiĝas ruino de antikva turo. Ĝi estis la fortikaĵo de iamaj marpiratoj! — Hodiaŭ, samideanoj, vi respiras ĉi tie pacan atmosferon: eĉ vi sentas vin sufiĉe ekster la bruanta mondo...

Germano: — Ho sinjoro! Tion ni ja serĉas! Estas ja por forgesi zorgojn kaj ĉiutagan bataladon, ke ni libertempe vojaĝas. Kaj mi rajtas aserti, ke pacon kaj trankvilon mi trovis en Italujo, kaj...

Italo: — Kompreneble, sed lasu min daŭrigi. Nepre vizitotaj estas la vilaĝoj Positano, Prajano kaj Conca Marini. Simile al aglonestoj algluitaj ĉe la monto ili kuŝas. Ĉi tie vi povas vin ripozi, aŭ vi povas, se tion vi deziras, daŭrigi la ekskurson ĝis Amalfi...

(La vagonaro haltas)

Voĉoj: — *Acqua minerale, cestini, giornali, cestiniiii*⁽¹⁴⁾...

Germano: — Mi petas, itala samideano, kion signifas: "*cestini*"?

Italo: — Tuj mi klarigos ĝin al vi laŭ la rekta metodo! Atendu momenton. (la itala vojaĝanto aĉetas 3 papersaketojn enhavantajn manĝ-provizon).

Vidu samideanoj. Cestino estas sufiĉe granda papera sako kaj entenas manĝaĵon. Ĝi solvas per plej praktika maniero la problemon de la nutrado sur niaj longaj distancoj en Italujo. Kompreneble, se tion vi deziras, vi povas manĝi en la restoraci-vagono. Sed vidu: Cestino estas kvazaŭ hazarda ludo. En ĝi vi malkovras ĉiam pecon de la loka gastronomia specialaĵo... tiel ke, cestino de Milano ne samas al tiu de Bologna kaj tiu de Cassino ne al tiu de Benevento. Sed ni malfermu Vidu! ĉi tie ni havas kuiritan artiŝokon, ovojn, krudan fenkolon, kelkajn juglandojn el Sorrento, vinberojn. Jen bone bakita pano, kaj peco da fromaĝo! Sed kia fromaĝo, samideanoj! Gustumu ĝin... kion vi diras? He? kaj ĉio per malmulte da mono. Iuj stacidomoj estas eĉ famaj pro siaj cestini, kredis min. Samideanoj: mi ankoraŭ rakontos al vi pri niaj famaj banlokoj, ekzemple pri Agnano — apud Napolo — pri la insulo Ischia — en la golfo, pri la pentrindaj lokoj... sed nun lasu nin unue gustumi tiujn ĉi apetitegajn surprizaĵojn kaj... tiun ĉi vinon! Ha, bongusta itala vino!

Italo: — *Alla vostra salute signori* ⁽¹⁵⁾

Franco: — *A votre santé* ⁽¹⁶⁾

Germano: — *Zum Wohl* ⁽¹⁷⁾

Ĉiuj kunvojaĝantoj (samtempe): — Je via sano!! (Ili trinkas)

Ĉiuj (post trinkado): — Vivu Italujo!!

(14)=Akvo minerala, korbeto, ĵurnaloj...

(15)=Vian sanon, sinjoroj!

(16) (17)=vian sanon!

por la:

Occurren los dos casos siguientes: o el sujeto es un ser vivo, o es un ser inanimado. En el primer caso, el sujeto es el sujeto de la acción, y en el segundo caso, el sujeto es el sujeto de la pasión.

Kio estas Filozofio?

verkita de Saiĉiroo NOMURA

B. Filozofio kaj Scienco

FILOZOFIO

Ĉapitro I. Enkonduko

A. Difino pri Filozofio

Filozofio estas la studado de fundamentaj principoj de l' universo kaj de la homa vivo.

Kio okazos ĉe ni, homoj, post la morto? De kie ni venis? Kaj kien ni iros?

Nia vivo estas mortema, nia morto estas neevitebla. Ĉu niaj aferoj en kvindek jaroj do estas nur sonĝo?

Nia korpo estas konsumiĝema. Ĉu ĉiuj materioj do estus nur ombro de realo?

Tiu estus la plej saĝa homo, kiu scias la vivon de l' estonto, kvankam li ne estus klera. Mi kredas, sed ne scias. Ĉu kredo estas scienco aŭ ne? Ĉu scio estas kredo aŭ ne?

Ĉu materia kosmismo donas plenan kontenton al ni.

Naturscienco estas progresema kaj senfina. Sed filozofio estas pretigata kaj ne estas progresema.

Natursciencoj, eĉ matematiko, bezonas eksperimenton, klarigon kaj pruvon.

Filozofio bezonas nenian klarigon. Ĝia karakterizo estas en memklareco.

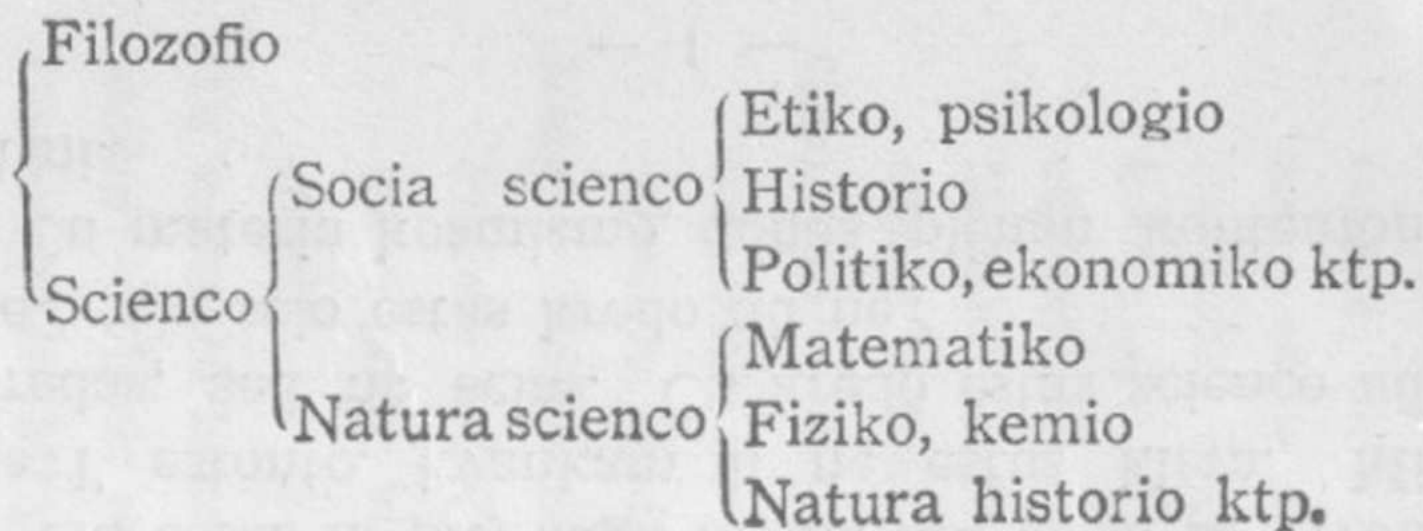
B. Filozofio kaj Scienco

Ĉiaj studoj estas klasifikataj laŭ siaj metodoj kaj studobjektoj kiel jene:

Laŭ metodoj	{	Subjektivaj studoj=filozofio, spiritaj studoj.
		Objektivaj studoj=naturaj sciencoj.
Laŭ objektoj	{	Prihomaj studoj=socistudoj, spiritaj studoj.
		Prinaturaj studoj=naturaj sciencoj.

Sed severe diferencigi subjektivon de objektivo estas tre malfacile. Politiko, ekonomiko, historio, etiko ktp. havas ambaŭ flankojn subjektivan kaj objektivan. Ĝenerale “prihomaj sciencoj” apartenas pli al filozofiaj studoj ol al naturaj sciencoj.

Mallarĝsence filozofio estas la studado de la tuto, kaj aliaj sciencoj estas la studoj de partoj. Germana filozofo Vundt klasifikis ĉiujn studojn kiel jene:



reprezentanta filozofo. Lia maralo karakterizas en humaneco kaj justo. Lia filo Cusu (子思) speciale alte taksis mezecon (aŭ moderecon). Lia disĉiplo Mengcu (孟子) alte taksis kuraĝon kaj juston.

Samepoke kiel Konfucio, Laocu (老子) estis ankaŭ fama filozofo, kies teorio alte taksis naivon kaj malkleron. Li pensis ke edukado kaj politiko efikas krime. Lia teorio nomiĝas Taoismo.

Konfuciismo fariĝis ortodoksa morala instruo dum ĉiuj ĉinaj dinastioj.

En la unua jarcento Budaismo estis enkondukita en Ĉinuĵon kaj en Tung-dinastio (唐朝) ĝi pleje prosperis.

En Sung-dinastio (宋朝) (10-12 jarcentoj) Konfuciismo fariĝis filozofia etiko sub la influo de Taoismo kaj Budaismo, Ĉusi (朱熹) estas la plej fama filozofo en Sung-dinastio.

Filozofio en tiu epoko parte devenas de Jikingo (易經, Varia doktrino). Laŭ ĝi ĉiuj variadoj en la universo devenas de la kombino de pozitiva (vira) kaj negativa (ina) polusoj.

Kaj ĉiu el ili estas duono de Granda Poluso.

Granda poluso { Pozitiva poluso } —————> ĉiuj
 { Negativa poluso } fenomenoj.

Uangjangming (王陽明) en Ming-dinastio (明朝) estis fama ideisto.

En Ĉing-dinastio (清朝) ĉina filozofio fariĝis historia esplorado kaj perfektigis Konfuciismon.

Ĉapitro II.

Historio pri Filozofio

A. Ĉina Filozofio

Historio pri filozofio estas tre grava por studi filozofion, ĉar teorioj de estintaj filozofoj ja ankoraŭ vivas ĝis nun, dum malnovaj teorioj sciencaj jam mortis.

En Oriento ĉina filozofio estas elstaranta pro sia moraleco.

Konfucio* (孔子) (kiu mortis 479 a.K.) estas ĝia

*) El Konfuciismaj sanktskriboj sin trovas esperantaj tradukoj de jenaj:

Lun'ju (論語), kolekto de la vortoj de Konfucio, kompilita de la disĉiploj. Ĝia unua duono estis tradukita esperanten de Kenĵi Ossaka kun la titolo "la Vortoj de Konfucio." (1924).

Tas'ao (大學) } unuj ĉapitroj el la libro Liĉi (禮記),
Ĉung'jung (中庸) }
verkitaj de disĉiploj de Konfucio. La tuta traduko de ambaŭ libroj estis tradukita esperanten de Kiuiĉi Nohara kun la titolo "Granda Lernado kaj Doktrino de Mezeco."

Ŝjaoking (孝經), verkita de disĉiploj de Konfucio, estis tradukita esperanten de Kiuiĉi Nohara kun la titolo "la Libro-konstantaĵo de Fila Pieco."

内外^エ運動展望

「エスペラントを現代生活に」の國際會議は来る

5月14-17日巴里で開かれる

エス語發展五十周年紀念として来る5月14-17日を期して巴里に Esperanto en la moderna vivo なる Internacia Konferenco がもたれる。

Prezidanto は巴里商業會議所會頭 André Baudet 氏、Vicprezidanto は Ernest Archdeacon, Louis Bastien, Jean Couteaux の三氏、ĝenerala sekretario は P. Petit 氏、ĝenerala kasisto は C. Rousseau 氏。

この konferenco は次の四部にわかれる。

- 1) Esperanto en la lernejoj. (Prezidanto: Besançon 大學總長 Pariselle 氏)。
- 2) Internacia trafiko. (Prezidanto: フランス國有鐵道 Ĝenerala Direktoro Dautry 氏)。
- 3) Sciencoj kaj Teknikoj. (Prezidanto: 佛國科學學士院會員 Cotton 氏)。
- 4) Intelektaj interŝanĝoj. (Prezidanto: 國際聯盟知的協力委員會々長 H. Bonnet 氏)。

これら四部門では殆どその材料蒐集の準備を始めた。右 konferenco のため同志各位が所持の材料を提供されたいと。

イタリーとブラジル

本號新刊紹介欄で紹介しておいたがイタリーでは Italia という觀光協會發行の雑誌が全文エスペラントのスパラシイ案内記を昨年發行した。イタリー觀光案内の大冊子である。

本號エス文欄にでゝあるものは同國情報省で懸賞募集したイタリー觀光客誘致のエス文ラジオ・ドラマの當選作である。あの當選作の後に「ぜひイタリーへきてもらひたい」といふ Mussolini 首相の言葉がついてゐる。

イタリーが觀光にエス語を如何に活用してゐるかのいい例である。

ブラジルでは昨秋第9回同國エス大會をもつたがその際外務大臣 Macedo Soares が之に好意を示しその結果外務省の室をかりて大會をひらき同國大統領 Getulio Vargas は

Alta Patrono de la Kongreso の titolo を快くひきうけた。

そしてエス大會紀念の郵便切手が發行された。

又外務大臣の好意により外發省の費用で Rio de Janeiro 市の案内記がエス文で發行されたそれについても本號新刊紹介参照のこと。

エスペラント週間

——来る4月12-18日——

エス運動後援會幹事會で今年の50周年を期しまづ大いに外部にはたらきかけるためザメンホフ博士二十周年の来る4月14日を中心に4月12-18日の間をエスペラント週間とさだめ宣傳ポスターを印刷し各地地方會の方々の協力を得て大いに一般世間に働きかけることになった。

各位の御協力を仰ぎたい。

いづれ詳細は次號から報道する。

照井澗三氏がエス詩朗讀さるる筈

聲樂家として有名な照井澗三氏は米國留學中エス語をやつたがその後ちつともやつてゐないが今もエス語熱をもつてゐるので永井淑氏の慫慂により今度エス語の歌を歌はれる決心をされた。數日前安井義雄氏が同氏を訪問懇談の結果近く同氏の放送の節エス詩の朗讀又はエス歌の獨唱をしてくれる筈である。猶中村慶子嬢もエス語に好意を示しエス歌を歌つて下さるとの事。

新築地劇團で

ザメンホフ傳上演?

新築地劇團の佐々木孝丸氏はザメンホフ博士を主題とすた戯曲を近々創作し之を同劇團

にて上演したき意向との事である。因みに佐々木氏は古いエスペランチストである。

ロンド・ハルモニーア

東京の安井義雄氏を中心に婦人エス聯盟の人々があつまつて昨冬のザ祭に合唱團をつくつたが本年から之が定期的練習をつづけることとし同團を Rondo Harmonia と名付け 1 月 23 日以来毎週土曜 18-20 時に練習をする。正會員は月額 50 錢(前納)準會員月額 30 錢。(右會費は會場と樂譜印刷費にあてる故參加者多數になりし時は減額すると)。練習場は京橋區銀座 5 丁目 3 小野ピアノ三階スタジオ。

入會申込は東京本所區平川稿 5 丁目の 2 安井義雄氏方へ。

人形劇團 Juna Pupo

若い藝術家たちによつて組織された人形劇團 Juna Pupo では、12 月 14 日から 16 日まで西銀座ラテン畫廊で同人製作の人形展覽會を開き、26 日には、丸ノ内電氣クラブで人形劇の第一回公演を試みた。ポスターには大きく“Juna Pupo”と書き出され、展覽會場で賣つたみやげ用の人形やエハガキにも、それぞれ人目につくやうに、Juna Pupo とするしてあつた。「エスペラント」2 月號の表紙は、そのみやげ用の人形とポスターの寫眞である。

浪花節をエス語で

都新聞 1 月 16 日の「私のプラン」欄で玉川勝太郎氏が浪曲をエス語で海外へ放送したい云々と云つてゐる。誰か浪曲をエス譯しませんか。

宣傳パンフレット用 論文懸賞募集

つぎの規定により、宣傳パンフレット用論文を、懸賞で募集します。宣傳上の *cerba laboro* に地方同志の參加を願ふ意味で企てたものでありますから、奮つて應募してください。

主催 エスペラント運動後援會

1. 課題 オリンピックと外國語の問題

我々は、オリンピック大會を、わが國におけるエスペラント運動、ひいては世界的なエスペラント運動を前進せしめる重要な契機たらしめたい。それには、あらゆる角度からの運動をなさなければなりません。すでに、いくつかの有効な Plano を立て、そのうちには實行に著手したものもあります。この論文は、オリンピックに際して、あらゆる方面に、エスペラントを持ちこみたいが、何

故に、エスペラントを、特に日本では、オリンピックに持込まなければならないか——それを、運動の指導原理を與へるといふ意味でなく、一般社會人に對し、その必然性を納得せしめるための宣傳的理論でなければなりません。

2. 分量 400 字詰原稿紙 20 枚乃至 22 枚。
3. 締切 3 月 15 日。
4. 賞金 1 等 (1 人) 10 圓。
2 等 (2 人) 各 5 圓。
5. 選 日本エスペラント學會編輯部。
6. 發表 レヴオ・オリエンタ 5 月號。
7. 刊行 パンフレットとして刊行の際は、著者名を入れない。當選作の版權は、日本エスペラント學會に屬す。
8. パンフレットとして刊行の際、編輯部で、内容を加除し、また、文體を訂正することあり。
9. 原稿は返却しないゆゑ、入用のむきは各自、寫しを保存しおかれたい。

學會理事として新らたに

鐵道省國際觀光局長

田 誠 氏

學會監事として新らたに

東京府立第六高女校長

丸 山 丈 作 氏

が就任されました。

全 國 各 地 報 道

投稿注意:

1. 日本文にて・なるべくハガキで・迅速に・簡単に。
2. 締切大體前月18日(18日以後到着のものものせることあり)。
3. 地方會誌を以て報道に代ふるをえず。
4. 寫眞は裏に必ず何の寫眞かといふ説明記入の事。
寫眞は返送せず資料として保存す。

各地のザメンホフ祭

東京 ★東京エス・クルーボ——12月15日午後6時より丸ノ内鐵道俱樂部に開く。参加者163名、嘗つてない盛會で流石の會場も狹隘を感じられた、司會者原田三馬君、渡部秀男君の開會の辭があり「ザメンホフを再認識せよ」の題下に磯崎巖氏が約30分エス語で熱辯せられた。暫く御病氣であつた淺田一博士が起れて挨拶を述べらる。留日中國エス學會を代表して葉君健氏の挨拶。次いで本年度エス語の學習を始められた方のsalutoj: 高見宏、井伏貞子、笹原茂三郎、笠松榮登子、久保須恵子の諸氏諸嬢。

餘興 1. 婦人聯盟連中の合唱、2. 手品——原田三馬君、3. マンドリン獨奏——永井叔氏、4. アコールドオン獨奏——武井實君、5. 口笛——塚田正勤君、6. 人形芝居——淺草エス會、7. 紙芝居——中川銀月氏、9時30分散會す。(K. H.)

★東京府立第六高等女學校では、1年と2年のエスペラント組の生徒および課外の聴講生70餘名が主催し、他の生徒や父兄を迎へて、12月20日(日曜)午前9時半から同校講堂でザメンホフ祭に兼ねて、同校エスペラント會の發會式を舉げた。2年野口京子さんの流暢なエスペラントでの開會の辭につづき、同校エスペラント課主任石黒修氏の挨拶、課外正村正江さんの會設立主旨の説明、同校校長丸山丈作氏の挨拶、つづいて來賓の土岐善磨氏、三宅史平氏の挨拶があつて餘興に入つた。餘興は、生徒自作のエスペラント劇も多數はいつて、合唱、獨唱、劇、舞踊、ピアノ獨唱等の盛澤山で、一人残らずが出演、それぞれ巧みにやつてのけ、父兄や、エスペラント科以外の生徒に對して立派なデモンストレーションをなした。餘興の間にも、葉君健氏、Alexander、磯部兩嬢の挨拶、永井叔氏のマンドリン演奏等があり、午後3時、盛會のうちに散會した。

横濱 ★學會横濱支部——昭和11年の棹尾を飾るZ祭を17日午後7時から櫻木町川村屋二階のクラブで開催。鎌倉、横須賀、平塚方面の同志も参加され、初講終了者の出席もあつて來會者は40名を超へ盛會であつた、保坂氏始め數氏の tabloparoladoj があつた後 Librofesto を開いたが、今年は從來と異つた pli intima な集ひであつた。

宇都宮 ★宇都宮エスペランチストクルーボ——1935年9月より12月までのUEK活動状況概況。

月 別	出席延人員	回 數
9 月	13 人	3 回
10 月	14 人	3 回
11 月	13 人	3 回
12 月	9 人	2 回
計	49 人	11 回

9月、10月、11月は Revuo Orienta, Esperanto-Lernanto, Fabeloj de Andersen のための會合各月1回宛。12月は R. O. のために1回と Zamenhofa Festo でこれは都合で23日の夜富永氏邸に於て開いた。毎年のごとく gaja humoro 一色である。(U. R. S. 報)

仙臺 ★學會仙臺支部——12月16日19時より明治製菓階上で、石田六朗氏司會のもとに開催、黒澤良平氏の初期仙臺エス運動の話、松隈健彦博士のエス語が役立つスエーデン山中の旅行談、猪川戒氏の學習當時の思ひ出話、土井八枝夫人の鯉のぼり會の話等 interesa parola do に耳を傾ける。各自自己紹介後、千葉正一氏の“Ĉu vi ŝatas aŭ malŝatas?”の餘興に爆笑。22時近く散會。來會者26名であつた。以上。

盛岡 ★盛岡エス會——12月15日(火)、場所、公會堂多賀二階、時間午後6時より。會費80錢。出席11名(井川會長、加茂盛商校長、遠藤盛商教諭、草刈高農教授、松本新聞記者、他に MERanoj 6名。)開會の辭あつてさやかなる晚餐、後加茂校長のザメンホフの生涯を偲ひての講演、草刈教授の十餘年前に於ける盛岡最初のエス語講習會の話等々、記念撮影終つて10時閉會。12月16日、155回例會、La MERの地方發送。

青森 ★青森エス會——12月15日、總出席23名。葛西藤三郎氏司會。弘前より柳田氏の訪問、弘前青森の連絡活動の Saluto. 神氏の parolado 及同氏指導の dramo. Kantoj 等々……夏以來急激に多忙を極めた青森エス會顧みてホツト吐息の姿。雪はだんだん積

る。春を待つて出直す意氣——(他地方會の御鞭撻を懇ふ若い青森エス會。)



青森エス會ザ祭

左より〔前列〕成田、(三人目)神、神、北川、加藤、〔中列〕葛西藤三郎、恵土、柳田、高田、葛西、大山、栗田、山下、川崎、〔後列〕山邊、齋藤、西山、横岡、森谷、西野、蛭名、大和田の諸氏諸嬢。

弘前 ★弘前エス會——ザメンホフ祭は12月16日夜百石町佐々木にて催された16名の参加者を得て、弘前のザメンホフ祭にはこれまでにない盛大さであつた。



弘前エス・ロンド・ザ祭
前列左より谷山氏、柳田氏

札幌 ★札幌エス會——12月14日、會員25名、外小樽より福田、江口、高橋三氏來札出席された。相澤氏司會の下に7時より、開會高瀬會長開會の辭、福田氏挨拶、高橋氏小樽エス協會を、脇坂氏小樽佛教エス會を代表して挨拶、續いてエスペロ合唱、續いて自己紹介、脇坂氏ザメンホフの宗教觀につき演説し續いて餘興に移る。第一は別室にて山賀博士の撮影になる日本大會の映畫上映。次に福引ありその他サミデアーノの隠藝色々あつて愉快な一夜を過した。今年のザ祭は今迄に見られぬ程潑らつたる熱が満あふれて居た。自己紹介の時なぞ皆の發表した意見には大いに聞くべきものがあつた。



札幌エス會ザ祭

右より〔前列〕情野、山賀、相澤、高瀬、眞下、高橋、江口、〔中列〕前田、金、七海、永見、武田、浪越、小口、長口、土井、〔後列〕山田、出津野、田中、佐藤、山岡、福原、小鹿、枋内、脇坂、木村の諸氏。

帯廣 ★學會帶廣支部——12月15日午後7時より、開會の辭佐藤氏。La Voie朗讀菅沼氏、會長の挨拶、副會長の挨拶、續いて支部總會に移る、沼田氏の會計報告、井上氏の事業報告。池田、渡邊兩氏を當會顧問に推戴することを全員一致して可決茶話會に入り、種々餘興も出て非常に愉快、9時30分井上氏の閉會の辭に終る。當夜會する者實に十有八名、非常なる盛會であつた。



帶廣エス會ザ祭

右より〔前列〕渡邊、池田、菅沼、沼田、長谷川、佐藤、木場、〔中列〕長峰、紺野、黒澤、尾澤、片倉、井關、〔後列〕井上、長田、片上、藤田、大關、野田の諸氏諸嬢。

小樽 ★小樽エス協會——今年は開催の場所を變へて、市内量徳寺書院にて12

月15日夕、開催。小樽エス協會、佛教エス會、會話會三團體の共催にかかるものである。

藤川哲蔵氏の司會の下に、型の如く、エスペーロ合唱後、福田仁一氏、高橋要一氏、岡崎靈夢氏各代表のサルートあり、會員の感謝の後、茶菓會に移り福引、其他の餘興あり、記念撮影をなして 10 時散會した。出席者 17 名。



小樽でのザ祭

苫小牧

★苫小牧エス會——18日午後6時より岡垣氏宅にて第七回ザ祭開催す。



苫小牧エス會ザ祭

右より〔前列〕鈴木、岡垣、谷尻、三原、西川、門脇、〔後列〕菅原、田中、岡垣、澁谷、吉田、兒島、野田の諸氏。

旭川

★旭川エス會——12月15日ザメンホフ祭、當夜役員協議會決定、次年度に於て學會にて博文館或ひは其の他の適當と認むる處に依頼してエス文日記作成の件、12月21日より毎週月曜日市内五條通八丁目コロンビヤ喫茶店にて行ふ事に決定、名稱は、Sunakunsido とす、從來の例會日を木曜日

に変更す。

秋田

★秋田エス會——當會のザ祭は12月15日午後5時から稲福樓上で催された。中田氏開會の辭についてザ博士の誕生からエス語の發生、日本への移入、現況につき語リエスペーロの合唱によつて式を閉じて後卓を並べて食を攝リエス語に關する話、從來の運動のあとを顧みて新年よりの希望等續出、新年 13 日からの輪讀會には文藝讀本のフランス篇を使用決定、散會は午後 10 時。(寫真次號)

富山

★富山エス會——12月15日午後7時より昭和會館三階食堂部に於て開催。五百石エス會より深井、松澤兩氏を迎へて總數 14 名。先づエスペーロを唱ひ、開會の辭について幹事より事業報告を受ける。質疑に關する説明等を終へていよいよザメンホフ祭の議事に入れば、深井氏音吐朗々として“vivo de Z.”の一節を讀み上げる。unualibro を發送してザメンホフが結果如何と頭を悩ましてゐる時に續々とうれしい手紙が送られて來るクダリ。次いで山村氏、五十嵐氏の祝電祝辭の披露があり、平岡、渡部、深井、北川、島倉、岩杉、馬場の各氏は交々立つてザメンホフに對する愛情を吐露して卓上演説をされた。amuzakunsido は時間不足の爲早々にして切上げてタギーヂヨを歌ひ、記念撮影をして 10 時解散した。



富山エス會ザ祭

左から〔前列〕深井、岩杉、松澤、橋垣、〔後列〕齋藤、島倉、平岡、馬場、渡部夫妻、藤澤(兵治)、五雙、藤澤(逸哉)の諸氏。

金澤

★金澤エスペラント會——12月15日ザ祭開催、片町石川屋食堂の別室にてザ祭を行つた。出席者、松田、那賀島、荒

木、松葉、中上、菅野、田中嬢、越中、越田、木津、高田、吉川、伊藤春夫、福岡、藤原、大瀧、平石等 18 名ささやかながら楽しい會合であつた。尙年末年始は休んで 18 日より會合を行ふ事となつた。

静岡 ★静岡緑星俱樂部——12 月 15 日 18 時より静岡市役所食堂にて静岡緑星俱樂部主催の 1936 年度ザ祭が飯塚傳太郎氏司會の下に開かる。出席者 25 名、會費 50 錢、Vespermango 後高橋邦太郎氏のザ博士談、平瀬、飯塚、富永氏等に次で自己紹介、感想談、清水市より馳せ參ぜし 5 名の Simizuanoj のエス詩朗詠あり最後に静岡市第一助役杉本良氏（かつて臺灣總督府文政局長時代に同地方エス界にホルモン注射せし有力なる同志）のエスペラント四方山話其他 amuzajo に近年にない gaja なフンイキがかもしだされた。杉本良氏の提唱で毎月 15 日の同時刻に同場所へ集ることに約束された。静岡エス界の基礎工事は斯くして着々進行中なれば期待されよ。

松代 ★松代エス會——12 月 23 日町立圖書館に於て 19 時より開催、栗林會長の開會の辭君が代次いで Espero 合唱終つて會長よりザ祭に就ての由來を述べて自己紹介に移り來賓關一二先生の明治 36 年頃エス語を學習せし當時の思ひ出と學習の動機に就て 20 分間に亘り興味ある講演あり。次いで記念撮影をなし尙一志斐雄先生のエス語に就いての思ひ出話ある筈なりしも電車の時間の都合により惜しくも退席せらる。次いで茶話會に移りエス語演説、エス語單語暗記の歌、漫談、獨唱と盛澤山にその上エス語のレコードをかけて朗かに爆笑して觀談、22 時散會。出席 24 名。



松代エス會ザ祭

〔前列〕小林、瀧澤(知)、栗林、關、一志、倉崎、新保、西澤、笠原、〔中列〕戸谷、小笠原、北村、長谷川、池田、關口、堤、中澤、瀧澤、〔後列〕關、窪田、丸山、中澤(信)、松川、宮崎の諸氏諸嬢。

名古屋 ★名古屋エス聯盟——12 月 19 日 19 時から名古屋エス聯盟主催の下に中區千早線通り名古屋新聞社三階會議室で開催、先づ當番會であるルーマの林一雄氏司會してエスペーロの齊唱に始り、各會代表の挨拶、N. E. S. を代表して竹中氏會の經過を簡単に報告し、最近チエコスロバキヤの同志から、Ora Delfeno を aboni したいとの申込あり、而かも名古屋市名古屋エス會とだけの宛名で葉書が到着した事わ N. E. S. の世界的進出であり又萬國大會東京開催を可能と見る證左であると結び、續いて醫大エス會の代表矢崎氏わオリシビツクに關し、青井博士(大會プロトローに青木とあるわ誤り)に、名古屋汎太平洋平和博に關し市當局にそれぞれ働きかけた事を詳細報告、林一雄氏わルーマクンシードを代表し簡単な挨拶を述べ、次で



名古屋のザ祭

左より〔前列〕四人目金子、由比、白木久美、マヨール、上村、尾崎、〔中列〕山崎、七人目西田、〔後列〕三人目白木、上島、竹中、矢崎、二人おいて山中、林の諸氏諸嬢。

竹中氏の大會漫談、尾崎氏のザ博士を思ふ、由比氏の各會合同に關する希望と東海地方聯盟結成と地方大會開催に關する提案あり、可決して餘興に移り、N. E. S. 新人組（澤田、吉田、牧野、澤田孝善、赤堀、村田）の荒城の月其他の合唱、矢崎、上島、林、山中氏等の朗讀劇ハイデルベルヒの思出等あり 22 時散會、出席 36 名。

大阪 ★大阪エス會——ザメンホフ祭——
兒島氏司會の下に 12 月 15 日夜スエヒロで。里吉氏の開會の辭、Espero 齊唱、司會者挨拶、小泉氏の第一回萬國大會演説の Deklamado、各エスペラント會代表の挨拶（鐵道寺田氏、新星會濱野氏、三省堂阿部氏、外語土屋氏、齒專關屋氏）の後夕食を共にし、伊藤氏の Esp. 漫談、千里放送長橋田氏の Kvin aventuroj per Esp. の面白い話、桑原氏の仙臺、福岡のラヂオ講演の再放送、西村氏の Elfrejo 自作詩の朗讀、山本氏の獨唱出席者の自己紹介、Tagigo の齊唱で開會。

神戸 ★板宿エス會——去る 12 月 14 日夜 7 時半より板宿永井永文堂書房に於てザメンホフ祭を舉行す。集まるもの會員 7 名（4 名缺席）、來賓 6 名、和氣靄々裡にエスペラントの父ザメンホフ博士を偲びつつ一夕の歡を盡した。席上會長の挨拶、來賓の挨拶あり終つて歌に福引に哄笑、爆笑を重ねつつ深更に及んで漸く閉會した。——尙爾來順風に帆を上げたる如き進展を示しつつある當會は又々第 4 回初等講習會を來る 2 月 1 日よ

り毎月曜開催する事となり、中等講習及研究會も昨年より引續き夫々水曜日曜に開いて熱心なる同志の翕合につとめてゐる。



板宿エス會ザ祭

中列右端永井會長、その左月木會長、前列左端田口氏、1 人おいて前田氏。

広島 ★広島エス會——12 月 15 日 19 時より市内革屋町「廣樂」でザ祭を催す。出席者、高橋博士、小林教授、黒田、前田、横山、永田、野村の 7 名。晚餐を共にしながらザ博士の著作を中心に、觀談し、朗讀、會話の律習を爲す、又小林教授の各國語研究談あつて益する所大、22 時半散會。

福岡 ★學會福岡支部——ザメンホフ祭、12 月 15 日夕學會福岡支部主催の下にブラジレイロにて開催、參加者 26 名、先づ大島廣教授のザ祭記念放送を聴き、同教授



大阪エス會ザ祭

の來着を待つて晚餐食にうつり、一夕の歡を盡す。



福岡支部ザ祭

前列左より4人目大島廣博士
その後堀内氏

行橋 ★行橋エス會——12月15日豊守氏方にてささやかなザメンホフ祭を催す。ザメンホフ氏の肖像のもとに會するもの6名。

本日の大島博士の放送や昨夜のラヂオ明日の話題など或は行橋に於ける過去の Batalantoj で満洲や開司市に轉居した人或は故人となられた人などの思ひ出等或は本年最後の會合として一年間の回顧談或は來年度の計畫打合せ等などやかに時を過し22時半散會せり。來年度の會合も従前通り毎月第一、第三土曜日19時より20時30分まで Paroladoj de D-ro Zamenhof 輪講、20時30分より21時30分までエスペラント丈で會話練習をすることに決定せり。但し次回は正月につき臨時會合日變更第2土曜日(1月9日)豊守氏方。

飯塚 ★飯塚エス會——12月15日午後6時半より都甲氏宅にてザメンホフ祭開催、出席者田中、野見山、小島、都甲、熊井、片山、本田、花村の諸氏。定刻野見山會長開會の辭、エスぺーロ合唱、感想發表、續いて茶話會に移り、今年の想出、來年の計畫につき座談を試み、10時半散會、尙來年は1月15日都甲氏宅に集會、エスペラント誌論説。

宮崎 ★宮崎エス會——12月15日20時より郡司邸にて、參會者24名、最初に杉田氏の「ザメンホフの自傳と其著作に就いて」の談話の後、自己紹介、日野博士の歐洲留學の思ひ出などあり、郡司氏に對する後援の感謝決議、山下イワオ氏へ機關紙發行の、

杉田氏へは其の獻身的努力の感謝をそれぞれ行ひ、餘興に入り、4部合唱、琴の連彈等に與じ、最後に郡司氏の厚意になる福引を行ひ、記念撮影の後23時過ぎ散會した。

大連 ★大連エス會——12月15日午後7時より大連滿鐵俱樂部第一集會室にて開催。



大連エス會ザ祭

右より〔前列〕入賀、望月、中溝、川上、石原、〔後列〕山田(貴)、山田(孝)、西原、徳安、祈、宋、大神、森原、長里、石崎の諸氏諸嬢。

放送協會へ投書せよ

日本放送協會では放送プログラム刷新の爲め放送に對する意見希望の投書を去る1月16日に希望の旨發表した。

我々同志はエス講座希望を書いて投書されたい。但しあくまでまじめな態度の投書であつてほしい。さうでなくては逆効果があるばかりだ。

日本放送協會の adreso は東京市麴町區日比谷公園2, 東京市政會館内。

各地一般報道

東京 ★婦人エスペラント聯盟新年會——昨年6月4日誕生以來健康な生長を續けて來た婦人聯盟は東京地方聯盟員の新年の顔合せを1月16日夜新宿森永に於て催した。參會者14名で中にはお子さん連れの方もあり、仲々の盛會であつた。出席者の挨拶の後、今年に對する希望や抱負を語合ひ、具體的な仕事の案を討議した。多事多端を豫想される1937年に於ける婦人エスペランチス

トの活躍を期待される様な熱心な討議の後 8 時半散會した。

★東洋文史研究所——12 月 6 日午後 4 時より事務所に於て本年度總會を催した、會計報告、事業報告並びに次年度事業計畫を談じて懇親會に移る。9 時半散會。

横濱 ★學會横濱支部——木曜例會（於住吉町三丁目メツセンヂャーボーイ事務所）研究會を午後 7 時から約 1 時間（中等讀本）後は會話會を開く、出席者は毎回 10 餘名。

★Amikino（會場同上）毎木午後 5 時より、用書 Marta.

★YMCA-Grupo（毎火金午後 7 時より於クラブ室）文法と會話の兩方面を“Gaja Lerno-libro”について行つてゐる。

盛岡 ★盛岡エス會——第 152 回例會、11 月 25 日、出席 4 名、輪讀と會話。第 153 回例會、12 月 2 日、出席 4 名、輪讀後長い間約 1 年近く休刊されてゐた La MER の最後の御挨拶を申上げるために、Kamenhof-festo までになんとかする事に決定、岩本氏は Skribmaŝino でエス文原稿の整理、大川氏は鐵筆を握ることとなる。早速今日から開始。第 154 回例會、12 月 9 日、出席 4 名、輪讀後 Za-festo の準備（新聞社との交渉、講習生諸氏への案内など決定）。12 月 13 日、臨時集會（laborkunsido）出席 3 名、やつと印刷され終つたばかりの La MER の製本、乾き切れぬインクで手を黒く光らせながら午後 11 時終了、やつと安心。

青森 ★青森エス會——先月の盛澤山な例會の疲勞、それに會員一般年末の繁忙にも拘らず公開講習、ザ祭等頑張つて 11 月

17 日より 12 月 15 日までのエス會合延人員 273 名、先月に比して 28 人の増加を算した。11 月 19 日第 2 回講習大工町幼稚園にて 12 人を集めた、會場其他の都合で 25 日短講完了までにエス會に残つた者 6 人に過ぎなかつたがそのまま中等科に進み、ロンド組替して 12 月 7 日より童話讀本輪講 10 名を作つた。毎月、金。12 月 5 日例會、學會新入會 3 名決定。毎 15 日例會、をお茶の會として気軽に集會する様此の際は neesp-istoj も大いに誘ふこと。Z 祭を以て本年度對外宣傳を打切り各ロンド指導に全力を注ぐこと約束。

小樽 ★小樽佛教エス協會——昭和 12 年初會を 7 日 7 時より市内量徳寺にて持つ。岡崎會長、邊見、藤川、竹内嬢委員以下出席會員 15 名（豫定）、會長の挨拶後、邊見藤川委員の今年の豫定についての意見あり、初等部は「エス講座の續講」高等部は「聖徳太子憲法」の輪講、其他隨意に會話研究をなす。

終つて汁粉の接待あり、私氣靄々 10 時散會。尙クチーマクンヴェーノは今年も毎月 7, 14, 21, 28 の 4 回である。尙當夜は札幌在住の會員脇坂氏の参加もあつた。

★小樽エスペラント俱樂部の設立、昭和 11 年 12 月 15 日を期して福田仁一氏に依つて設立された。事務所は當分の間小樽市永井町 2 ノ 23 福田方に置く。尙、福田氏が主宰してをつた國際友好會は同俱樂部に合併され小樽エスペラント俱樂部國際親善部と改稱された。

★小樽市量徳女子尋常高等小學校は小樽エスペラント俱樂部國際親善部の助力を得てエス語を使用して 60 餘ヶ國、約 100 校に圖畫作品交換を 1 月 11 日申込んだ。集まつた作品は今夏小樽市に開催の北海道大博覽會の教育館に出陳される豫定。

秋田 ★秋田エス會——12 月 22 日午後 6 時からエス會事務所中田氏宅にて初等講習開始、受講者 8 名、職業別にすれば學生 3, 會社員 2, 官衙勤務 1, 教員（専攻科在學）1, 無職 1, 内婦人 1, 用書講習用書、何れも至極熱心に受講す。講師中田氏。

松代 ★松代エス會——11 月 25 日例會開催新役員を決定。瀧澤ヨリエ（婦人部）、吉村榮祐（學生部）兩氏上京のため缺員の處新に選舉により下記の通り決定。

會長栗林亨（以前通り）、會計瀧澤岩雄、池田茂夫、回覽誌瀧澤知四、例會係松川徳太郎、學生部丸山國雄、婦人部西澤清子、笠原小すへ。



東奥義塾エス講習記念

〔前列〕右より、田中（都雄）、田中（定二）、柳田（講師）、池田、河野、川崎の諸先生、その他は生徒。

會合時間變更、12月1日より3月末日まで、初、中等科共に 18.30-20.30 時に改む。毎水曜日初、中合同會話練習日、出席者 15 名。
 ◇1月14日新年宴會。松代町カジ町「おぎの」に於て松代エス會有志の新年宴會を 18 時より開催、名の通りいと朗に無禮講、獨唱あり、舞踊あり、詩吟あり、でもエスペーロとタギーデョは忘れずに高らかに聲をはり上げて近隣を壓した。そして席上エス會一同での地藏峠スキー場へのスキー行と20日前後に「かるた會」を開く事に決定、21.30 時散會。出席者 10 名。

名古屋 ★名古屋エス會——毎週月曜日夜の輪讀會を 12 月14日を 11 年度最後とし、暫く休んで1月11日から再開、1月中に北歐篇を終る筈、◇木曜夜の初講を 12 月17日で冬休みとなり、新年を 14 日から再開。
 ◇12月16日由比氏指導の下に臨時 kanto 練習會を持つ。會場は何れも中區鐵砲町2丁目白木氏方。

大阪 ★大阪エス會——毎週火曜豫告の通り例會が行はれた。1月12日天王寺高女の岡田教諭の女學校と Esp. に關する話の後、東京の原田三馬氏挨拶さる。

★OES 豫告——毎週火曜午後7時から東市民館(谷町4丁目)で北歐篇に就き研究會。第3火曜は Trapezo で會話會。特別講演、2月2日、池川清氏(目で見たヨーロッパの Esp. 運動)、2月23日、城戸崎益敏氏(世界の言語委員はどんな本を推薦するか?)

山口縣 ★柳井町——柳井町當地在住の中國新聞社柳井支局の同志弘田傳氏が昨年 12 月中に同新聞山口版に三回にわたりエス關係の記事を掲出したのを機として當町のエス同志が互に知り合ひ 1 月下旬中に柳井エス會の創立發會式を舉行することになった。現在のサミデアノは柳井署竹繩部長、正福寺山本至道、土木出張所長廣瀬新太郎、弘田傳、沖堀清の諸氏とほかに明治 39 年日本にエスが入つた當初のエスペランチストで考古學の泰斗として知られている神田繼治氏も再び綠星人に復り參加されることになつた。なほ勧誘によりコメンツアントになつた者は 6 名である。

★柳井裁縫女學校(現在生徒 150 名 4 月より 200 名に學級増加)では全生徒および職員 9 名が科外としてエスペラントを學ぶことに決定、毎週土曜日午後2時間づつをエス時間とし講師には弘田傳氏があたり、1月16日午後

の同校第1回のエスの時間にはエスの概要と普及の現状についての説明講話が行はれた。

宮崎 ★宮崎エスペラント會——12月15日は宮崎エス會創立5周年に當るので、記念祝賀會と第5回總會並にザ祭を併せ行ふことにした。

當日 17 時福岡よりの大島博士のラヂオ放送を同杉田氏邸に參集聴取の後、祝賀會場、笑樂にて 18 時より第5回總會を開く、出席者 13 名、機關紙 Semanto を休刊し季刊の Bulteno を出すことと、明年度の活動方針を議した後下記の通りの役員改選を行ひ、引續き祝賀晚餐會に入り談笑裡に 20 時ザ祭會場郡司氏邸へ移る。1937 年役員、會長日野巖、會計菊池イネ、文庫杉田正臣、通信渡部毅、講習福田勝、庶務川野繁男。

RO 1937 年度分製本

御希望の向は 2 月末日迄に學會へおとどけ下さい。金 70 錢(但し返送料をふくむ)をおそへ下さい。



三角泰氏製作
 のザメンホフ博士胸像(詳細前號參照)

報道追加 (18 日以後のもの)

青森 ★青森エスペラント會——12 月 18 日—1 月 15 日參會延人員 169 名(新加入 Fino 3 名)流石忘年會、新年のざわめき學生の學期試験で出足が揃はず先月に比し 100 名の減少となつた。◇12月31日、Aomori Esp. の Kabineto に於て完全除夜忘年會をやつた夜明け頃には Esp. よりも居眠りが先き。◇1 月 2 日、Esp. 新年會は吹雪を犯して淺虫の宿舍に神氏を訪ねて温泉に浸つて年頭の意氣を養う。歸途省管バスのなかには Verda Atmosfero に他の乗客も一寸ダー。◇1 月 15 日、月例會於榮作堂。參集 20 人。1 年間の

プラン技に在りとばかり議論百出、各目意見として本年を Z 博士の研究に出掛けると云ふ者、目標を小國チェッコ、オーストリの總ゆる方面にエス語によつてと云ふ者、書きたい者、うんと遠足をしたいと望む者、等々。だが如何せん餘りに多忙な餘りに若い青森は顧みて實力養成第一の一言に盡きる状態。會としての本年度の plano は大體次の様な相談の決定をなす。

1. 第1月、仕上整理の月とし、現在手掛けてある各 klaso の各 teksto を完了すること。

2. 譯讀會(第一期4月迄)小學生組 Gaja Lernolibro. 中等學生組、上級は Pinokjo 會話、下級は Malsagulo, 女子部は Malsagulo, Dialogo kaj Komedio, 一般組、北歐篇、Z 讀本。

3. 會話會、2, 3, 4 月は月例會を利用、4 月下旬聯合會話週間を持つ。

4. 講習會、公開講習會4月中旬、7 月下旬、10 月中旬の3回。

5. 遠足、春季5月上旬弘前觀櫻會を利して弘前 Esp. Rondo を訪問。秋季10月下旬十和田觀光。

6. 海濱學校、8 月夏季休暇に淺虫海岸溫泉に十日間合宿 Esp-Vivo を行ふ。初等講習をも行ふ。

7. 宣傳旅行、本縣三大市たる南部地方の中心八戸市に於て(夏、休に)小展覽會講演會を開催、出來得れば初等短講も行ふ。

8. 新聞宣傳、4 月 Z 博士廿週年忌に際して、7 月 Esp. 發表五拾年祭、10 月オリンピックとエスペラント。



秋田エス會ザ祭

右より〔前列〕横谷、稻葉、佐々木、〔後列〕中田(由)、吉田、根本、中田の諸氏諸嬢。

帯廣 ★**帯廣エス會報告**——年來多忙のため12月15日を以て昭和11年度事業を打切る。昭和12年1月1日、副會長旭川エス會訪問、明年度大會の準備の意向を打診。1月7日、當會本年度の初顔合せ、談論風發頗る盛會であつた、目下機關誌第四號發行のため準備中。1月10日、沼田氏北海道銀行清水支店へ轉勤、出發した。

札幌 ★**札幌エスペラント會**——◇初等講習開催。昭和11年11月13日より向ふ三週間の豫定にて週2回講習會開催。受講者15名内3名はフラウリーノ、講師として中島氏及同志其の任に當る。今回の受講者は從來に見ざる熱心さにて全講習回数11回を通じて平均1回の出席者9.7名の成績を示し成功裡に終る。講習書として短期講習書使用。

★**ザメンホフ祭舉行**——12月15日午後6時



札幌エス會・ザ祭

右より〔前列〕岡田、中島、小笠原、小森、坂本、後藤、村上、太丸、〔中列〕佐々木、土肥、室岸、谷内、中山、近藤、成田、栗林、式場、〔後列〕千葉、三角、皆川、木間、眞島、渡邊、佐藤、内田の諸氏諸嬢。

半より鐵道俱樂部に於てザメンホフ祭を舉行す。出席者26名にて各同志のパロラード。自己紹介、盛澤山なアムザージョを、會務報告等10時記念撮影を成して此の有意義なる會を閉じた。尙此のザ祭に於て特筆大書すべきは此の日を記念して熱心なる同志7名が我會に入會されて札鐵エス會の礎の愈々固められる事である。

★札幌エスベラント會——◇12月16日、水曜日集會、12名、用書ザ讀本。◇12月23日水曜日集會、10名、會場はいづれも、高瀬先生宅、用書輪讀の後、明年度の色々な計畫談に花をさかせた。11年度のこれが最後の集會であつた。◇1月13日、水曜日、12年度最初の集會である。會する者11名、研究の後今年の計畫キボーを語り會ふ。◇札幌エス會事務所は札幌市北二條西14丁目高瀬正榮方です。

★札幌エス會話會——◇12月25日、年末なので中止する。◇1月8日、新春早々元氣にみちた顔で皆集まる、今度の會場は明治製菓二階、會する者8名、大會以來すばらしい上達を見せた Samideanoj は口角あわをとばしてバビツた。

大連 ★大連エス會ザ祭——12月15日夜7～10時滿鐵社員俱樂部にて參加15名。

記念祭タペ開會の辭	石崎分一
“La Vojo”朗讀	望月正子
“大谷正一氏 saluto”代讀	徳安清敏
エス文學及ザ博士略傳	大神武敏
U. E. A. 現況に就て	
D. de U. E. A.	徳安清敏
日本エス界初期及ニユース	中溝新一
大連初期運動	石原眞一
“Al fratoj”朗讀	長里徳保
ザ博士講演朗讀	宗禹憲
Popolkantoj	祈豊巳
エス・レコード演奏	

◇例會、毎週火曜、19～21時、輪讀講義、21～2130時、會話、協議、懇談、茶菓。

- 1) 7月に50年記念事業を行ふ。
- 2) 7月を中心として新聞、雑誌に働きかける。
- 3) 會員各自、記念的行事をなす。
- 4) 發表を期して7月に大々的懇親會を催す。
- 5) 會員毎月30錢つづ會費を出し、上記の會合費に當つ。

以上1月12日提案事項(未決)。

街頭のエス語

★長野縣松代町丸忠商店スキ部はスキー用品陳列即賣會のチラシ3000枚に Venu al skifako de Maruĉuu!! Vidu skian ekspozicion!! とエス語が入つてゐるし同町池田商店洋裁では貸スキー服廣告チラシ5000枚に Jam neĝo venis!! Al ĵizoo-tooge!! とエス語が入つてゐる。

★大阪前田製菓所發賣のコーヒ糖中にエスベラントと綠色紙カードに印刷したのを入れてゐる。説明は砂糖についてでエスに對して何等説明がない。

新聞雑誌とエス

★岩手日報(12月12日)——ザ祭記事。

★植物及動物第四卷第十二號十二月——次の論文はエス語の titolo がある。

1. Papilioj en la Monto Jiisan (智異山の蝶類) de D. M. Seok (石宙明)。
2. Oo-U-Kijo (王雨卿): Kelkaj observadoj pri Hinda Bord-Hirundo (Riparia paludicola brevicaudata) en Tainan, Formoso. (コセウドウツバメ(改稱) Riparia paludicola brevicaudata (Horsfield, 1839) の構巢並びに習生に就て)。
3. N. Oka (丘直通): Pri la vivo de C. L. Morgan (モルガン小傳)。

★北陸日日新聞——(12月22日)ザメンホフ博士を憶ふ——金澤エス會、(12月23日)——同上記事、(12月25日)——英語の本場からエスベラントの手紙——安本静枝氏、(12月29日)——日本エス大會に於ける開催地市長の祝辭。(1月3日)——私の崇拜する偉人ザメンホフ——馬場彌十氏。

★十勝毎日新聞——(12月19日)オリムピック大會と言葉(論説)、(12月19日、20日、22日)——語學試験——佐藤松男氏。

★東奥日報——ザメンホフ祭青森開催の記事。

★宮崎今日——宮崎エス會と其のアーノイ一會員氏、(12月17日)——ザメンホフのタペ高農日野教授外遊漫談一クサリの記事。

★青岡民友新聞——(12月19日)冬はスキーにのつて、オスロ觀光協會誌(エス文)よりの轉譯記事。

★岩平日報——(1月1日)エスベラント事始——高橋康文氏。

★無線通信——(第34號)エス欄創設に當つ

て——佐久間武彦氏、ザメンホフの日に——小椎尾豊氏。

★飽薇——(第12卷第11號)エス語の歴史と現状——久保貞次郎氏。

★植民地——La kolonio なる titolo を有す(發行所 函館市旭町 70 井口方)。

★名古屋新聞(12月14日夕刊——15日々附)「ザメンホフ祭」と題する活三郎の隨筆。

★名古屋佛教青年(1月11日)——丹羽正久氏の「正月の想出」の中にエスペラントとザメンホフに言及。

★中信時報(10月1日、11日、21日、11月8日)——観光の信州として先づ何を用意すべきか——栗林亨氏稿。

★植物及動物(第5卷第1號第271頁)——Masao Suzuki: Lasttempaj Progreso en la Fiziologio de Stimulado (刺激生理學の近況) esp. titolo あり。

★くろだいや新聞(1月14日)——大牟田井上氏と獨人との切手交換(記事)。

★臺灣教育(12月號)——國府氏著「臺灣に於ける國語教育の過去現在を読む」——南島生氏——エス語にふれた點あり。

★工士會々誌(12號)——故宗近君の思出——和泉誠一氏。

★などや(45號)——名古屋中央電話局長天野榮十郎氏の巻——岩田氏。

★京都青年(12月號)——國際語の問題とYMCA——野島安太郎氏。

★都新聞(1月16日)——浪曲をエス語で海外へ中繼——玉川勝太郎氏(intervjuo 記事)。

★小樽新聞(1月12日)——量徳女子校がエス語を使用して世界60餘國約100餘校と圖書作品の交換の記事。

★旭川新聞(1月14日)——同上。

地方會機關誌その他

★La Fervojisto (鐵道聯盟)(61號)菊判14頁。車輛術語「10」(根本)エス語の Ideologio について(關口)。

★La Fervojisto (鐵道聯盟)(62號)菊判114頁。白川白士兩氏歡迎會に出席して(高橋)。

★La Kosmo (東京)(10號)菊判16頁。エス界打診(露木)、東北に縁友を訪ねて(村上)、ウ・エ・アはどうなつたか。

★La Paco (谷大)(5號)菊判16頁。Disiĝo (K. Kanamatu), Fama Etikistino (W. Krause)。

★La MER (盛岡)(30號)35頁。Trans la montaro (Tošio Ito), Kroniko de MER。

★La Lumo (名古屋)(3號)16頁。La dua de la Nagoja (矢崎)、初等講習雜感(林)。

★La Suno (和歌山)(4號)四六倍判8頁。La mondo kaj Japanujo (Ogasawara)。

★La Lumo Orienta (佛教聯盟)(4號)菊判16頁。國際語の土壤(柴山)、Lilioj en valo (K. Kanamatu)。

★現代時潮と國際語(名古屋)28頁(座談速記録)。

★Forta Voko (北陸エス聯盟)(12月號)5頁。各地報道。

★Libero (三高)(42號)30頁。Pri Japania Nacia Kolegio。

★Beko (岡山)(4號)8頁。世界語寸見(福永)。

★Nia paŝo (北勢エス聯盟)(1月號)8頁。昭和12年を迎ふるにあたり(五井)。

★Bulteno de K. E. L. (京都)(12月號)8頁。Riĉigu Nian literaturajon (Nakahara)。

★Eho (岸和田)(32號)(33號)報道。

ANONCETOJ

Revuo Orienta 舊號 (次のもの) 譲つて下さる方はありませんか。

第1年1-8號、11號、第2年1, 2, 6-11號、第3年1, 2, 3, 6-12號、第4年7-12號、第5年全部、第6年4-6號、第7年2, 6, 10, 第8年2, 8號。

Internacia Esperanto-Muzeo,
Wien I, Neue Buag, Heldenplatz.

以上の中どれか御寄贈下さる方は學會宛その旨御一報下さい。

Daŭriga volumo de Enciklopedio de Esperanto estas plenforte redaktata kaj aperos en la jaro 1938. Por posedantoj de la unuaj du volumoj la eldonejo ebligas favorprezan aĉeton al la tria volumo kaj pro tio ĝi sendis detalan oferton al ĉiuj el ili. Se iu posedanto ne ricevas tian oferton ĝis la 1-a de januaro, bonvolu pri tio skribi rekte al la

eldonejo **Literatura Mondo,**
Budapest. IX.

鐵・道・と・エ・ス

聯盟本部 機關誌 La Fervojisto の編輯方針を會員の要望に應へて一部改め正月號より新裝を以て發行された。

東京 中等講習 初等講習終了後引續き12月8日より開催。講師は初講と同じく田中信之氏、用書は下村氏童話讀本、受講者6名。

研究會 毎木曜、用書はインテルロンピータ、カント、出席者5名。**新年會** 1月14日午後6時より新宿白十字にて有志會合し新年の抱負を語り合つた。**役員會** 常任委員會と中央委員會は毎月1回宛開く。

吹田 昨年末講習會終了してから業務上頻繁に會合を開けないので毎金曜吹田驛前の喫茶店プリンスに會話會兼漫談會を開いてゐる。

大阪 12月1日紀伊長島の田中氏、12月3日東京の萩元氏等來往の都度會を訪ねられて有志と會合を開き種々懇談した。

苫小牧 最近室蘭より東郷氏が轉任されたので室蘭より分離して會を創立した。代表者は苫小牧保線區東郷顯。

室蘭 毎週木曜日定期的會合。6-7名出席。

朝鮮 第一回初等講習 11月11日より鐵道局內會議室に開催、講師大山聖華氏、毎週月水金、講法はレクタメトード、受講者は70餘名で局内の各課に互つて居る。出席率もよく毎回50名を下らない状態で中にはボツボツ會話の出来る者もある。受講者中6名のf-inojも居り内地のf-inojと文通を希望して居る。**中等講習** 初等講習をそのまま引繼いで1月15日より中等講習を開く、講師矢島英男氏、用書下村氏童話讀本。**第二回初等講習** 中等講習と殆んど同時に第2回を開く。**矢島氏正月に上京** 會の首腦部の一人矢島英男氏は公務を兼ねて正月休に上京し學會、聯盟本部其他と運動上の方針並に仕事につき充分に懇談した。

クララ會 會合は毎月第二土曜1回とし會員宅をもちまはることに決定。

婦人聯盟 毎月第2月曜夕本郷森永で會合に決定。

A N O N C E T O

★Foto-poŝtkartojn pri Estonio eldonis Pärnu Esp. Societo (adreso: Riia

Mnt. 76, P./A. S-ro J. Simson, Pärnu, Estonio) kun klorigaj tekstoj en du lingvoj: estona kaj Esperanto. La interesajn bildojn oni volonte sendas al ĉiuj, interŝanĝe kontraŭ alilandaj foto-poŝtkartoj, kiujn oni sendu en nefermita koverto, kiel presaĵon. La cititaj Poŝtkartoj estas tre utilaj por Esp. propagando!

★Orienta Kulturo No. 3. 2月15日發行(東京駒込動坂228東洋文史研究所發行)1部30錢、送料2錢學會取次。主要内容——日本美術史點描(上)——露木清彦。日本神道史(2)——福田正男。大祓祝詞エス譯——野原休一。その他學界消息、挿圖多數(入會規定及小報無代進呈)。

K O R E S P O N D A F A K O

★S-ro F. Placodio, Via Dalbertis 16, Genova (Italia), ŝanĝe de 100/1000 PM. mi sendos saman kvanton da Italaj. Korespondas esperante kaj france.

★S-ro Joŝiĝi Takeda, ĉe Toŝimaoka-bjoojin, Nagasaki-higaŝi, Toŝima-ku, Tokio, Japanujo, dez. krsp. k. gesam. malsanaj en aŭ ekster Japanujo. (Mi estas malsana).

編 輯 後 記

★1月號の野村氏の日本小史は好評で單行本にせよの聲が多いので早速單行本にしました。あの論文の寫眞が倒に入つたのは一寸不體裁で申譯ありません。だがその後技術的にうまく寫眞を入れるやり方に氣付きましたから今後はそのやり方にします。

野村氏の日本小史を宣傳用に御利用下さい。

★ラヂオの一覽表は一度材料を紛失したのですがまだ十分各地方會の御協力をえられなかつたので完全ではありません。

★上田信三氏は若い地理學者。上田東京商大學長の息。

★イタリーのラヂオ・ドラマは日本の外客誘致のためのエス文ラヂオ・ドラマでもつくるための参考に入れたのです。

エスペラント運動後援會報告 (7)

1 月 16 日(土)午後 3.00-6.00 第 7 回幹事會。出席者、小坂、大木、酒井、久保。學會事務部より岡本、三宅。

報告事項

支出

セルパン廣告代 15.00

雑誌(一月號)廣告の反響 (3月16日迄の數)

セルパン	31
現代	33
文藝春秋	30

宣傳パンフレット論文募

さきに 1 月 1 日附の JEI—Informilo で地方會には御知らせした通り、本會が中心となつて宣傳パンフレットを作る論文を募集することになった。

- 1) (題目) 「オリンピックと外國語の問題」
- 2) (紙數の制限) 400 字詰、20-22 枚
- 3) (締切) 3 月 15 日
- 4) (賞金) 一等 (1 人) 10 圓
二等 (2 人) 各 5 圓
- 5) (選) 學會編輯部
- 6) (發表) R. O. 5 月號

(詳細は本號その欄参照)

地方同志の振つて應募せられんことを希望します。

文筆家への質問書

さきに本會が主となつて、地方同志の協力のもとに行つた、代議士エス語問合せは豫想以上の成功を齎した。今回は我が國の文筆家數百人に對して、次のやうな質問書を送ることに決定した。

1. 貴下の著作物中、エスペラント語に翻譯、世界に紹介するのに最も適當とするものを御推薦下さい。
2. エスペラント語は日本文學を國際的に紹介する爲に、適當な言語と思はれますか。

新聞、雜誌廣告

出席者各人から、諸種の雑誌名があげられ、夫々その得失を熱心に論じ合つたが、結局今月は決定せず、來月の幹事會まで研究することになった。——例へば少年少女にエスペラントの存在を記憶させておくことは、いままぐ効果が現れないとしても、三年、五年、十年の先の影響を考へれば、この方面の宣傳も重視してよい譯である。ところが少年少女には現在の學會發行の「概要」は少し難かしすぎる。従つて少年向きのパンフレットが作製されてから、「少年俱樂部」とか「少女俱樂部」へ廣告を出すことになった。

エスペラント週間

ザメンホフの死去の日、4 月 14 日をはさんでエスペラント宣傳週間として、全国各地で大いに ne-esperantisto に呼びかける運動を起こしては、といふ小坂氏の提案から、種々議論がたたかわされた。特に本年は死後 20 年であり、新聞雑誌に記事を書く、普及講演會等を催ほすなどの計畫を各地方會でたてて邁進したら、相當効果があることと考へられる。そこでピラを本會で作製し、地方會に無料で配布し、啓蒙につとめることになった。

地方圖書館にエス書寄贈

全國三府四三縣北海道、臺灣、朝鮮、樺太の公立圖書館にエスペラントの書物が備附けてあることは宣傳上望ましいことであり、後援會が學會から極く初歩の啓蒙的な書物を、特別安く買ひ取つて、第一期として 50 組寄贈することに決定。「エスペラント捷徑」、「國語の擁護を論じて國際語に及ぶ」、「ザメンホフの生涯」三冊を選定した。

拂込濟會費合計

1,526.31 圓 (16 日現在)

本會取次内地發行圖書

・ エスペラント研究社發行書 ・

梶 弘 和 :	新和エス小辭典	日常語新語を收録した ポケット用の豆和エス	價 20 錢 送料 2 錢
トルストイ作・ シリコフ譯・ ツルゲネフ作・ カーベ譯・	イワンの馬鹿詩	トルストイ作民話中の 最傑作・譯文最も平易	價 40 錢 送料 2 錢
佐々城 佑 :	散文 讀本	珠玉の名品五十の名譯 親切な獨習用註釋付き	定價 1 圓 送料 4 錢
梶 弘 和 :	模範エスの朝	譯讀會話作文の平行的 進歩をはかる・問題付	價 35 錢 送料 2 錢
菊池 寛作・ 梶 弘 和 譯・	緑の歸	多種多彩興味ある讀物 中等講習向き小形讀本	價 30 錢 送料 2 錢
金東 洋文作・ 志賀 直哉作・ 梶 眞知子譯・ 岡本 綺堂作・ 三宅 史平譯・	洗濯屋と詩人	菊池寛作中最も著名な 戯曲・譯も上演に好適	價 30 錢 送料 2 錢
林 房雄作・ 梶 首藤共譯・	范の犯罪物語	明朗なユーモアに富む 初期無産派の社會劇	價 30 錢 送料 2 錢
江戸川 亂歩作・ 下村 芳司譯・	修禪寺の繪本	珠玉の名作「范の犯罪」 と「やどかりの死」二篇	價 30 錢 送料 2 錢
同 :	繪のない繪本	綺堂の最傑作・歐洲で も屢々上演した名戯曲	價 30 錢 送料 2 錢
ドレーゼン著・ 梶 弘 和 譯・	一枚の切符 I	全巻を十二夜に分ち 月が語る世界の種々相	價 30 錢 送料 2 錢
梶 弘 和 譯註 :	黄金假面 I	一枚の切符を手掛りに 複雑巧妙な犯罪の發覺	價 30 錢 送料 2 錢
鴨 長 明 作・ 野 原 休 一 譯・	ザメンホフの怪記	我が代表的探偵小説家 亂歩の日本ルパン物語	定價 1 圓 送料 4 錢
	黒猫の丈	新しい批判的角度から 見直したザメンホフ傳	價 80 錢 送料 4 錢
		セクストン・ブレイク の本格的探偵小説傑作	價 35 錢 送料 2 錢
		古典中最も傑れた文章 で書かれた隨筆の名譯	價 20 錢 送料 2 錢

・ そ の 他 ・

小坂 狷二共著・ 秋田 雨雀・	模範エス獨習書	外國語の素養なき人々 に適する親切な講述書	定價 1 圓 送料 8 錢
ヘルメーサ・ ロンドー・	エス・羅・日 藥品名彙 獨・英・佛	日本藥局法による名彙 新藥局法による増補版	定價 2 圓 送料 6 錢
野 原 休 一 譯 :	エス譯普門品	梵、漢原文付	價 40 錢 送料 2 錢
高 石 綱 譯 :	聖德太子 十六憲法		價 15 錢 送料 12 錢
岡本 利吉 著 :	美經	精神と物質の兩生活の 新原理を提唱したもの	定價 1 圓 送料 8 錢

ザメンホフ博士浮彫

鈴木心齋作
鑄鐵製・木枠入

上 1 圓 70 錢, 並 1 圓 20 錢
送料 (内地) 各 14 錢

東京市本郷
元町一丁目

財團
法人

日本エスペラント學會

電話小石川 5415 番
振替東京 11325 番

阿部定事件

昨年五月十八日帝都に起つて全日本を驚かした前代未聞の獵奇事件を醫學の立場から見た、我が國法醫學の泰斗淺田一博士の批判。しかもエスペラント文書下しの記事。脚註付の興味深い讀み物。

女ばかりの都

白雲軽く空を流れる平和の城市ブームの町。明日は「英雄の祭」とて、市民は、その準備に餘念もない。その時、突如として聞える馬蹄の音——スペイン軍の襲來だ！明日はブームの町は、灰燼と屍の山の中に明けるであらう。その時市長少しも騒がず、持出した妙計は？そして、その結果は？ともかく翌朝去り行くスペイン軍の後に残つたのは一通の免税狀であつた。巨匠フエデエ作、フランソワ・ローゼ、ジャン・ミュラー共演、トビス超特作映畫の物語。エスペラント文、註付。

エスペラント國の財政と幣制

エスペラント國風土記

の第二編。エスペラント國の財政に對するザメンホフの見識。エスペラント貨幣單位 spesmilo による貨幣や小切手の出た話。井伊迂老人の談。

若きザメンホフ・少年

學校では、彼は首席を占めてゐた。家庭では、彼は兩身の愛と弟妹たちの尊敬を一身にあつめてゐた。だが、彼は、それで幸福であつたらうか。數限りもない衝突、争ひが町中にはびこつてゐた。少年ザメンホフの胸は痛んだ。より幸福な町、より善き社會、より正しい世界への憧れが、世界語の思想へ、彼を導いた。若い歴史家の熱情が誌面に溢れる。

以上いづれも「エスペラント」二月號に掲載

この他、「初等讀物」、倉地氏「單語の比較研究」、小坂氏「前置詞略解」、中垣氏「自由作文講評」、三宅氏「和文エス譯講評」、岡本氏「質疑應答」等、等、例によつて豊富な内容。

二月十三日發賣の三月號の呼物は、新川、池川兩氏のヨーロッパ旅行記、淺田氏の性訓等、等

1部 20 錢，送料 5 厘，舊號見本 10 錢，1 年分送料共 2 圓 30 錢

東京本郷
東元町

財團法人 日本エスペラント學會

電話小石川 5415
振替東京 11325